

中高生のICT利用実態調査 2014

ベネッセ教育総合研究所

現 在の中高生は幼い時から

ICTメディアやインターネットに囲まれて育った
デジタルネイティブ世代です。

そんな中高生の生活世界は、

ICTメディアを通じてどのように広がっているのでしょうか。

また、ICTメディアはふだんの学習に影響を与えているのでしょうか。

ベネッセ教育総合研究所では、ICTメディアについて、

子どもたちの利用の実態や意識を把握することを目的として、

中学1年生～高校2年生までのおよそ1万人を対象に

調査を実施しました。

スマートフォンなどのモバイル型のICTメディアの普及は、

子どもたちとメディアの関係を密接にする一方で、

どのように関わるかについては大きな課題もあります。

本調査からとらえられたデジタル世代の実態を、

適切な関わり方や今後の取り組みを考える

参考にしていただけましたら幸いです。

ICT = Information and Communication Technology [情報通信技術]



Contents

chapter 1	ICTメディア・情報利用の実態	04
	インターネットへのアクセス手段と 利用時間・利用内容、情報源	
chapter 2	オンライン上のつながり・ コミュニケーション	16
	オンライン上のネットワークの広がりや コミュニケーションに対する意識	
chapter 3	学習とメディア利用	26
	中高生の学習時のメディア利用と 「ながら行動」の実態	

調査概要

調査テーマ	中・高校生のICTメディアの利用実態と意識
調査方法	学校通しの質問紙による自記式調査
調査時期	2014年2月～3月
調査対象	中学1年生～高校2年生 合計9,468人(有効回答数) 中学生:3,203名(13校) 高校生:6,265名(15校)

※中学生については、大都市(東京23区内)、中都市(地方中規模都市:人口密度が中/人口規模が20～40万人程度)、郡部(町村部:人口密度が低/人口規模が1～10万人程度)の3地域区分を設定してサンプルを抽出した。
 ※高校生については、上記に準じる地域区分[大都市(東京23区内)、中都市(地方中規模都市相当)、郡部(町村部相当)]に加え、学校の偏差値層を考慮してサンプルを抽出した。対象校は全日制普通科(理数科含む)。
 ※調査対象校はすべて公立。

回答者属性

区分			中学校(13校)				高校(15校)		
			1年	2年	3年	計	1年	2年	計
性別	男子	件数	560	603	554	1,717	1,604	1,397	3,001
		%	52.5	56.1	52.2	53.6	48.1	47.6	47.9
	女子	件数	506	470	506	1,482	1,708	1,530	3,238
		%	47.4	43.8	47.6	46.3	51.3	52.2	51.7
	無回答・不明	件数	1	1	2	4	20	6	26
		%	0.1	0.1	0.2	0.1	0.6	0.2	0.4
都市規模別	大都市(東京)	件数	357	318	323	998	901	628	1,529
		%	33.5	29.6	30.4	31.2	27.0	21.4	24.4
	中都市	件数	344	367	313	1,024	1,129	1,124	2,253
		%	32.2	34.2	29.5	32.0	33.9	38.3	36.0
	小都市	件数	366	389	426	1,181	1,302	1,181	2,483
		%	34.3	36.2	40.1	36.9	39.1	40.3	39.6
計	件数	1,067	1,074	1,062	3,203	3,332	2,933	6,265	
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

本調査結果を読む際の留意点

- 本調査は、ICTメディアおよびインターネットやメール利用にかかる実態や意識を探ることが主テーマであるため、調査設計上、それらの利用者のみが回答する設問が多くなっている。調査結果を正確に読みとるうえでは、各グラフの上に示している回答母体に関する表記(「全員」「インターネット利用者」など)にご留意いただきたい。詳細はp05の図01を参照。
- 学年は調査実施時期(2014年2月～3月)の時点での学年を表している。
- 一部の項目については2008年に実施した「子どものICT利用実態調査」と同じ項目をたずねており、経年比較をおこなっている。2008年「子どものICT利用実態調査」の詳細については、ベネッセ教育総合研究所のWEBサイト(<http://berd.benesse.jp/>)をご参照ください。
- 本調査結果で使用している百分比(%)は、有効回答数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数点第2位以下を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、数値の和が100にならない場合がある。
- 各図表内の()内の値はサンプル数を表す。

chapter 1

ICTメディア・情報利用の実態

中学生の9割、高校生はほとんどが、ふだんインターネットを利用しています。そのアクセスデバイスは、中学生で、スマートフォンやパソコンだけでなく携帯型音楽プレーヤーなども含め多様化している様子がうかがえます。高校生は約9割がスマートフォンです。

このようなモバイル型のデバイスの普及は、中高生にいつでもどこでもネットにアクセスできる環境をもたらしています。中高生の半数以上がニュースなどの情報をネット経由で手軽に入手しているようです。しかし、一方では長時間利用や情報リテラシーの不足など課題もみられています。この章では、インターネットへのアクセス状況や利用内容、情報利用を中心に今の中高生の実態をみていきます。

Contents

1-1	インターネットを利用している人、 していない人はどれくらい？	05
1-2	所有しているICTメディアは？	06
1-3	多様化するインターネットへのアクセスデバイス	07
1-4	インターネットをする時間はどのくらい？ ー利用時間全体とコミュニケーションの時間ー	08
1-5	インターネットで何をしている？	10
1-6	利用ルールは決めている？	11
1-7	ニュースなどの情報はどこから？ ーインターネットメディアと既存メディアー	12
1-8	情報リテラシーは身につけている？	13
1-9	インターネット動画とテレビどちらを見る？	14
1-10	携帯電話やスマートフォンがなくなったら どのくらい困る？	15

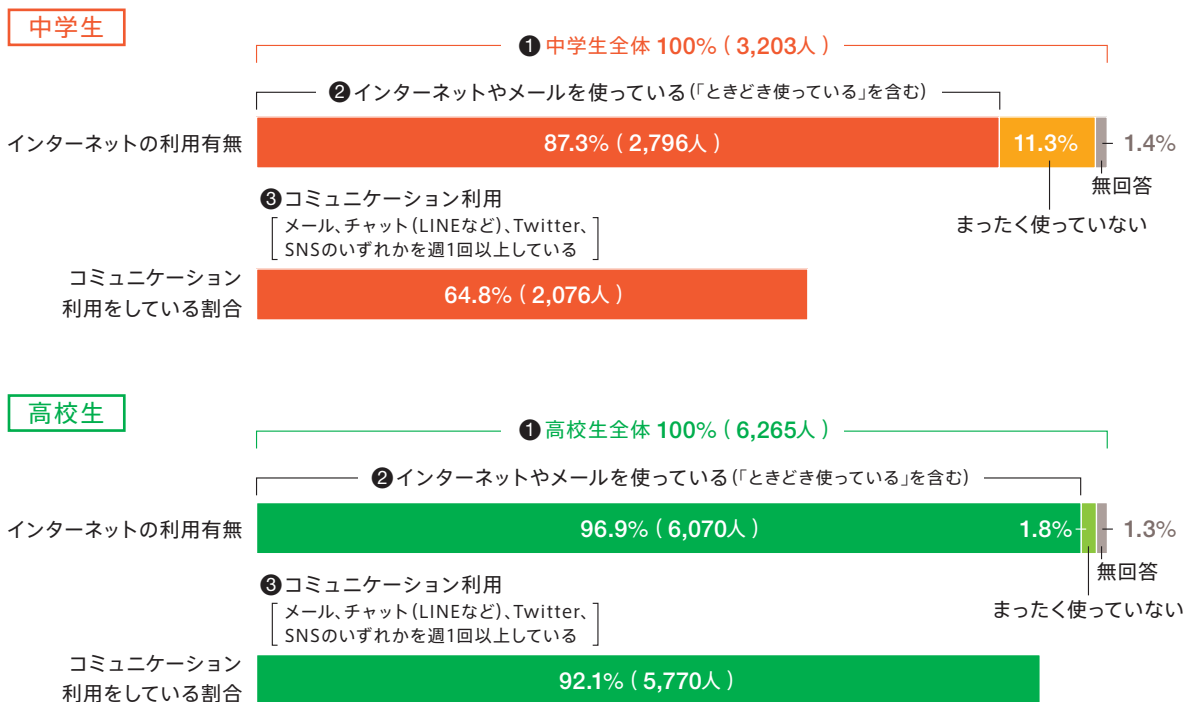
高校生はほぼ全員、中学生も9割弱がインターネットを利用。 中学生のメールなどのコミュニケーション利用は6割強にとどまる。

ふだんインターネットやメールを利用している(学校の授業以外)のは、中学生87.3%、高校生96.9%である。中学生ではまったく使っていない人も11.3%いる。これをコミュニケーション利用(メールやチャット(LINEなど)、Twitter、SNSのいずれかを週1回以上しているケース)に限ってみると、中学生は64.8%にとどまり、インターネットは使っていても、コミュニケーション利用はしていないケースが2割程度あることがわかる。高校生はインターネット利用もコミュニケーション利用もほぼ全員が行っている。

Q ふだん、インターネットやメールを使っていますか。学校の授業での利用は含めません。

※ウェブサイトを見る、メール、チャット(LINEなど)、ブログ、Twitter、SNS(mixi、Facebookなど)を読む・書く、動画を見る、ゲームをする、などすべてを含めてお答えください。

図.01 インターネットやメールの利用状況



注) 「③コミュニケーション利用」をしている割合は、p10の図08の「メールをする」「チャットをする(LINEなど)」「Twitterをする」「SNS(mixi・Facebookなど)をする」のいずれかについて、「週1~4回くらい」または「ほぼ毎日」の該当者数を算出したもの。

以降、本書でグラフの右上に表示する分析の対象が、「全体」となっている場合は①を母数にした割合を、「インターネット利用者」となっている場合は②を母数にした割合を表します。

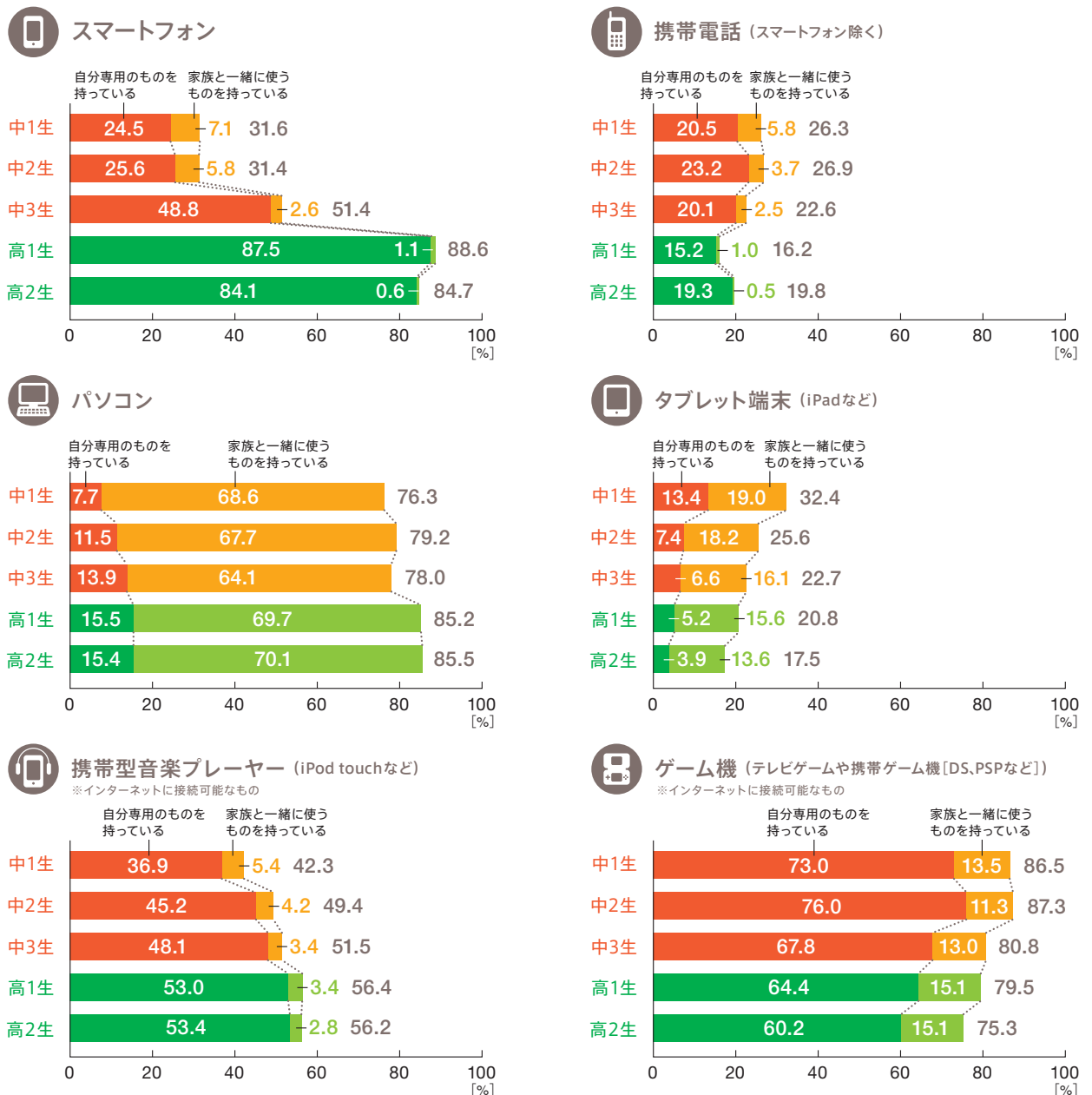
高1でスマートフォン所有が増え、ほぼ9割に。 タブレット端末 (iPadなど) は中1が多い。

中高生の情報通信機器の所有率は、自分専用の「スマートフォン」を持つ割合は中1生では24.5%だが、高1生では9割近くに達する。「パソコン」は家族との共用が多い。「タブレット端末」は中1生が最も多く、自分専用と家族共用を合わせて約3分の1 (32.4%)が所有している。また、インターネットに接続可能な「携帯型音楽プレーヤー (iPod Touchなど)」の自己所有は中1生 36.9% < 高2生 53.4%と学年があがるにつれて増え、「ゲーム機」の自己所有は中2生の76.0%をピークに、学年があがるにつれ徐々に少なくなっている。

Q あなたはふだん、次のようなものを持っていますか。

図.02 ICTメディアの所有率 (学年別)

全体



注1) この設問は「自分専用のもを持っている」「家族と一緒に使うものを持っている」「持っていない」の3択で回答。

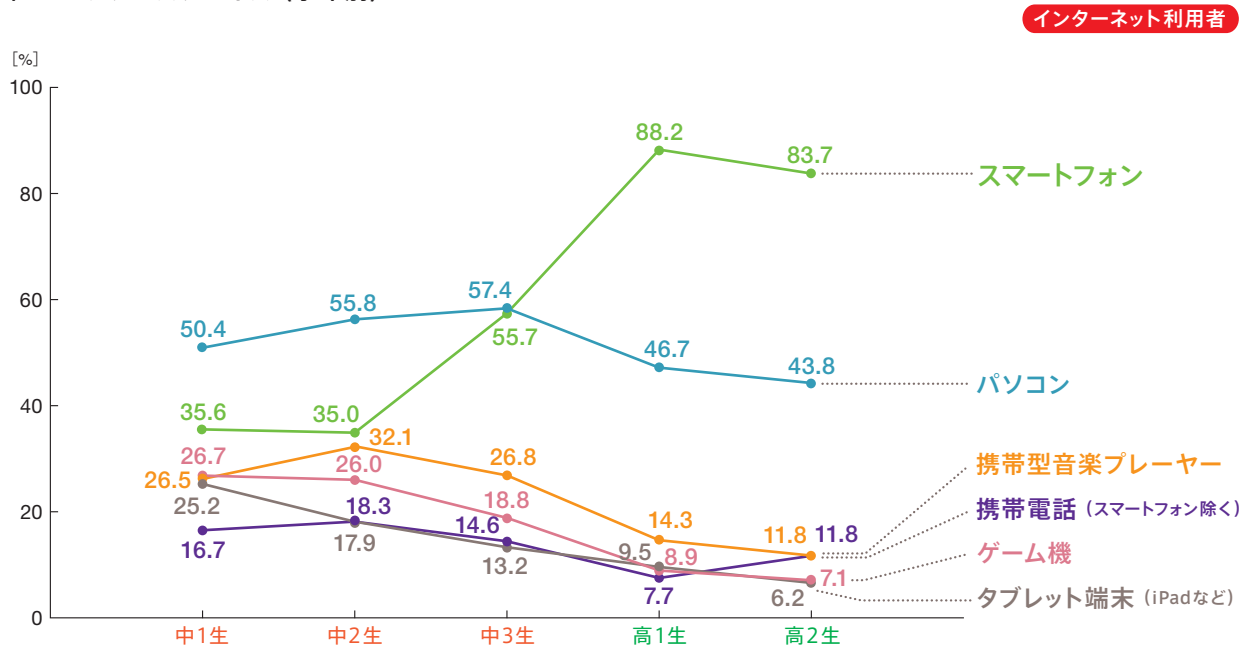
注2) 対象は、中1生1,067名、中2生1,074名、中3生1,062名、高1生3,332名、高2生2,933名。

高校生では「スマートフォン」の利用が8割超、中学生では、「携帯型音楽プレーヤー」なども含めアクセスデバイスは多様に。

インターネットにアクセスする時に使用しているデバイスは、中学生では「パソコン」が5割程度で最も多いが、高校生になると、「スマートフォン」が増加し8割を超え、その他のデバイスの利用率が下がる。使用デバイスの組合せ(表01)をみると、高校生では、「スマートフォンのみ」が42.5%、「スマートフォン+パソコン」の組合せが25.2%と、この2つのパターンでおよそ7割に達する。他方、中学生については、「スマートフォンのみ」が最も多いものの15.1%に過ぎず、アクセスデバイスは多様になっている。

Q あなたはふだん、インターネットやメールをする時、何を使っていますか。(複数回答)

図.03 アクセスデバイス (学年別)



注) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。

表.01 アクセスデバイスの組合せ

インターネット利用者

中学生		高校生	
	[%]		[%]
スマートフォンのみ	15.1	スマートフォンのみ	42.5
パソコンのみ	10.4	スマートフォン+パソコン	25.2
スマートフォン+パソコン	9.3	スマートフォン+パソコン+携帯型音楽プレーヤー	3.1
携帯型音楽プレーヤーのみ	8.5	スマートフォン+パソコン+ゲーム機	3.0
パソコン+ゲーム機	6.1	その他(51の組合せ・全て3%に満たない)	26.0
パソコン+携帯型音楽プレーヤー	4.7		
携帯電話(スマートフォン除く)のみ	3.9		
タブレット端末(iPadなど)のみ	3.1		
その他(51の組合せ・全て3%に満たない)	38.6		

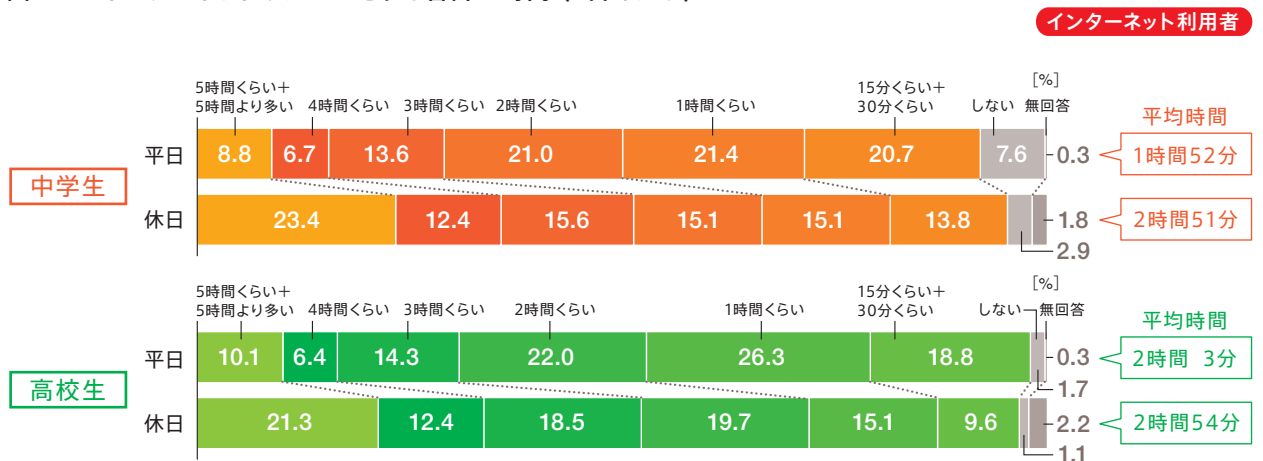
平日に「5時間以上」利用している中高生が1割前後、休日だと2割を超える。

ネットやメールの利用時間について、1日あたりの「1)合計時間」「2)1)のうち、メールやチャット(LINEなど)、SNS(mixi、Facebookなど)、Twitterをする時間」(=コミュニケーション利用時間)に分けてたずねた。長時間利用者に着目すると、合計の時間は、「5時間以上」の利用者が中高生とも平日に1割程度、休日だと2割程度に増える。また、コミュニケーション利用に関しては、休日には、中高生とも「5時間以上」利用者が1割程度いる。一方で、中学生は、コミュニケーション利用を「しない」人も3割弱存在している。

Q 平日と休日に、インターネットやメールをどれくらいしていますか。
だいたいの時間を教えてください(使用機器は問いません)

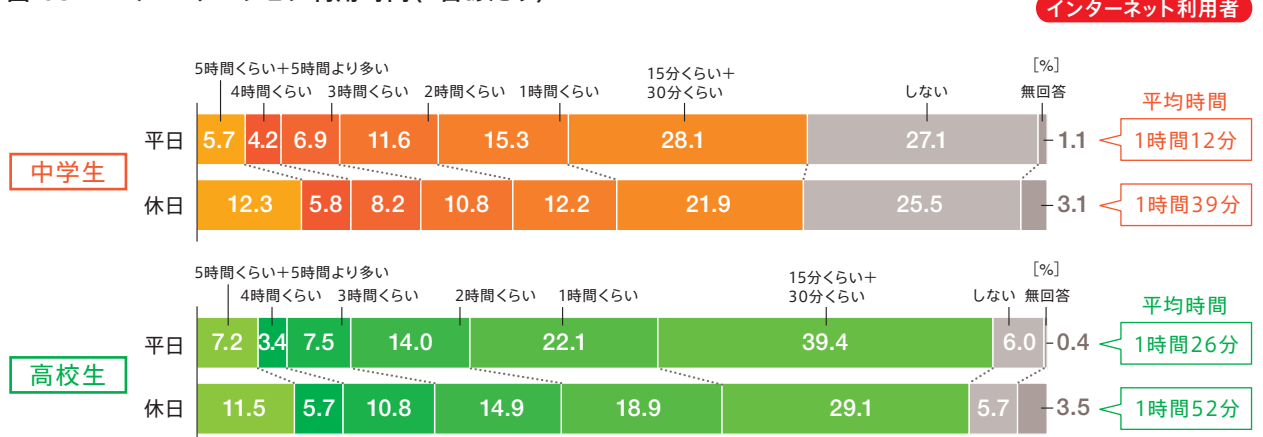
インターネットやメールをする合計の時間(1日あたり)

図.04 インターネットやメールをする合計の時間(1日あたり)



インターネットやメールをする時間のうち メールやチャット(LINEなど)、SNS(mixi、Facebookなど)、Twitterをする時間(1日あたり)

図.05 コミュニケーション利用時間(1日あたり)

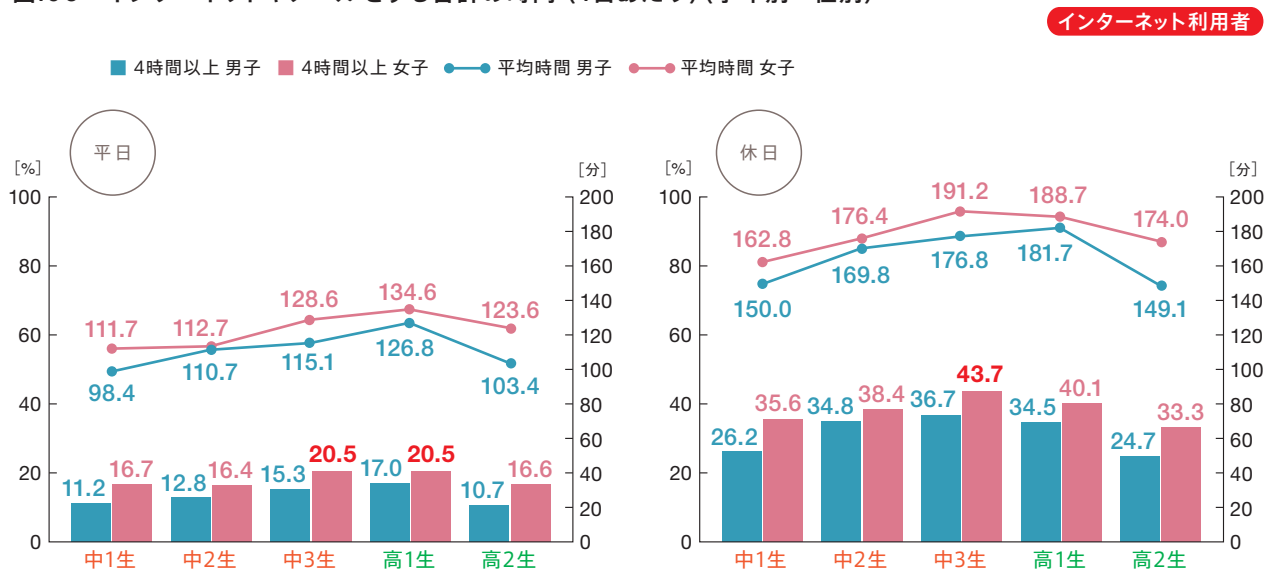


中3女子の約3割が休日にコミュニケーションに4時間以上費やしている。

性別に利用時間(平均)をみると、どの学年においても女子の方がやや長くなっている。特に「コミュニケーション利用時間」で男女の差が大きい。また、1日に「4時間以上」利用している割合をみると、中3女子が最も高く、休日の「インターネットやメールをする合計の時間」は43.7%(図06)、うち「コミュニケーション利用時間」だけでも28.1%が「4時間以上」費やしている(図07)。平日でも中3女子と高1女子は20.5%が「4時間以上」使用しており、その多くはコミュニケーション利用であることがわかる。

インターネットやメールをする合計の時間(1日あたり)

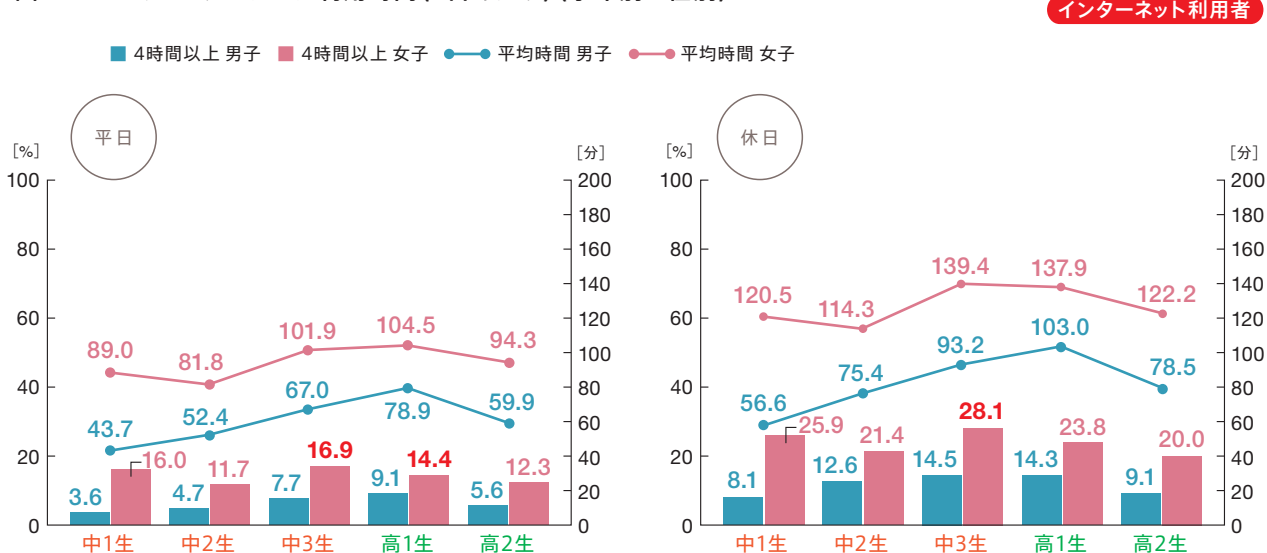
図.06 インターネットやメールをする合計の時間(1日あたり)(学年別×性別)



注1) 平均時間は、「しない」を0、「15分くらい」を0.25、「30分くらい」を0.5、「5時間くらい」を5、「5時間より多い」を6として算出している(無回答は除く)。図07も同じ。
 注2) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。図07も同じ。

インターネットやメールをする時間のうち メールやチャット(LINEなど)、SNS(mixi、Facebookなど)、Twitterをする時間(1日あたり)

図.07 コミュニケーション利用時間(1日あたり)(学年別×性別)

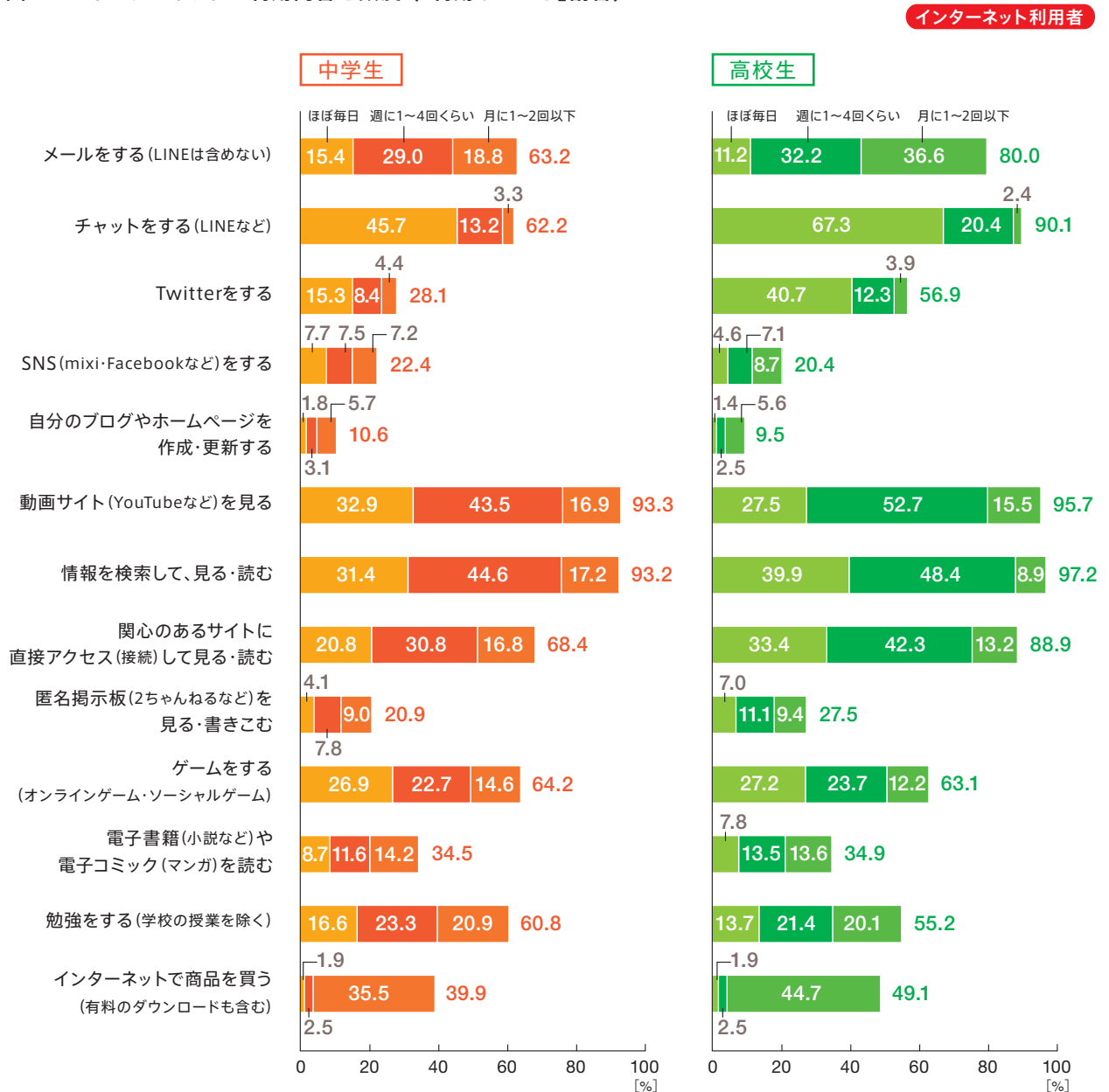


ネット利用者の約3割は 動画サイト (YouTubeなど) を「ほぼ毎日」利用。

中高生がインターネットを使ってどのようなことをしているのか、利用の有無および頻度をたずねた。図08は、各項目について、「利用している」割合（「しない」「無回答」以外の割合。以下、利用率とする）を表している。利用率が高いのは「動画サイト (YouTubeなど) を見る」「情報を検索して、見る・読む」で9割を超えている。「ほぼ毎日」する割合をみると、「チャットをする (LINEなど)」が高く、中学生45.7%→高校生67.3%と高校生で大きく増えている。同様に、「Twitter」も高校生になると40.7%と高くなっている。

Q あなたはふだん、インターネットを使って、次のようなことをどれくらいしていますか。

図.08 インターネットの利用内容と頻度（「利用している」割合）



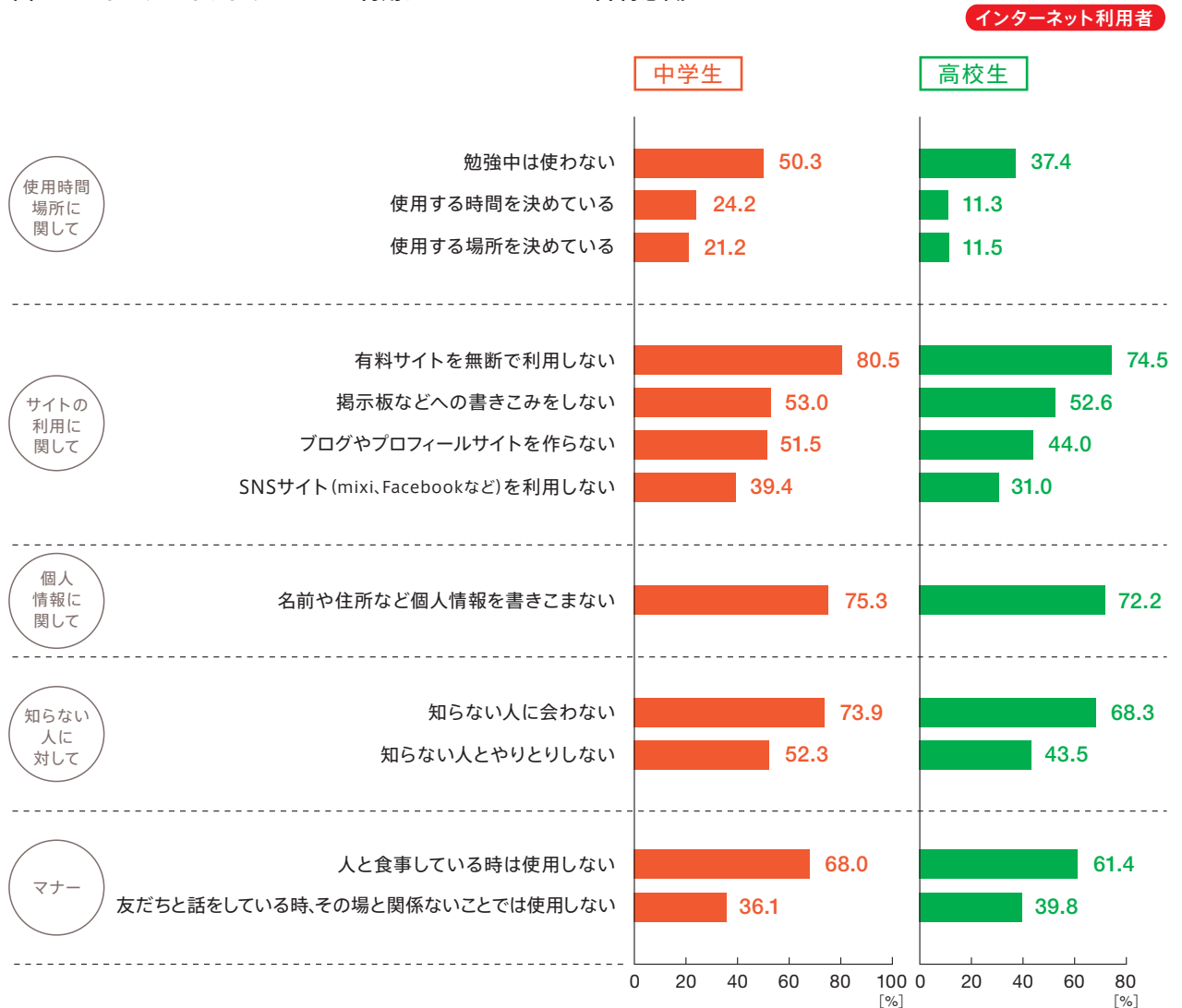
注1) 選択肢は、「ほぼ毎日」「週に3~4回くらい」「週に1~2回くらい」「月に1~2回くらい」「月に1回以下」(=以上「利用している」)、「しない」の6択。
グラフでは、「週に3~4回くらい」「週に1~2回くらい」を「週に1~4回くらい」、「月に1~2回くらい」「月に1回以下」を「月に1~2回以下」として表示している。
注2) 対象は、中学生2,796名、高校生6,070名。

「勉強中は使わない」としているのは、 中学生で半数、高校生は4割弱。

インターネットやメールの利用について、ルールや自製の意識についてたずねた。「勉強中は使わない」としているのは中学生で5割、高校生で4割弱であった。「使用する時間を決めている」のは中学生では24.2%だが、高校生になると11.3%に下がる。また、知らない人との接触に関しては、「知らない人とやりとりしない」としているのは、中学生で52.3%であるが、高校生では43.5%に下がり、「知らない人に会わない」も中学生の73.9%から高校生は68.3%と若干下がっている。

Q インターネットやメールの利用について、以下のことを意識していますか。(複数回答)

図.09 インターネットやメールの利用についてのルール・自制意識

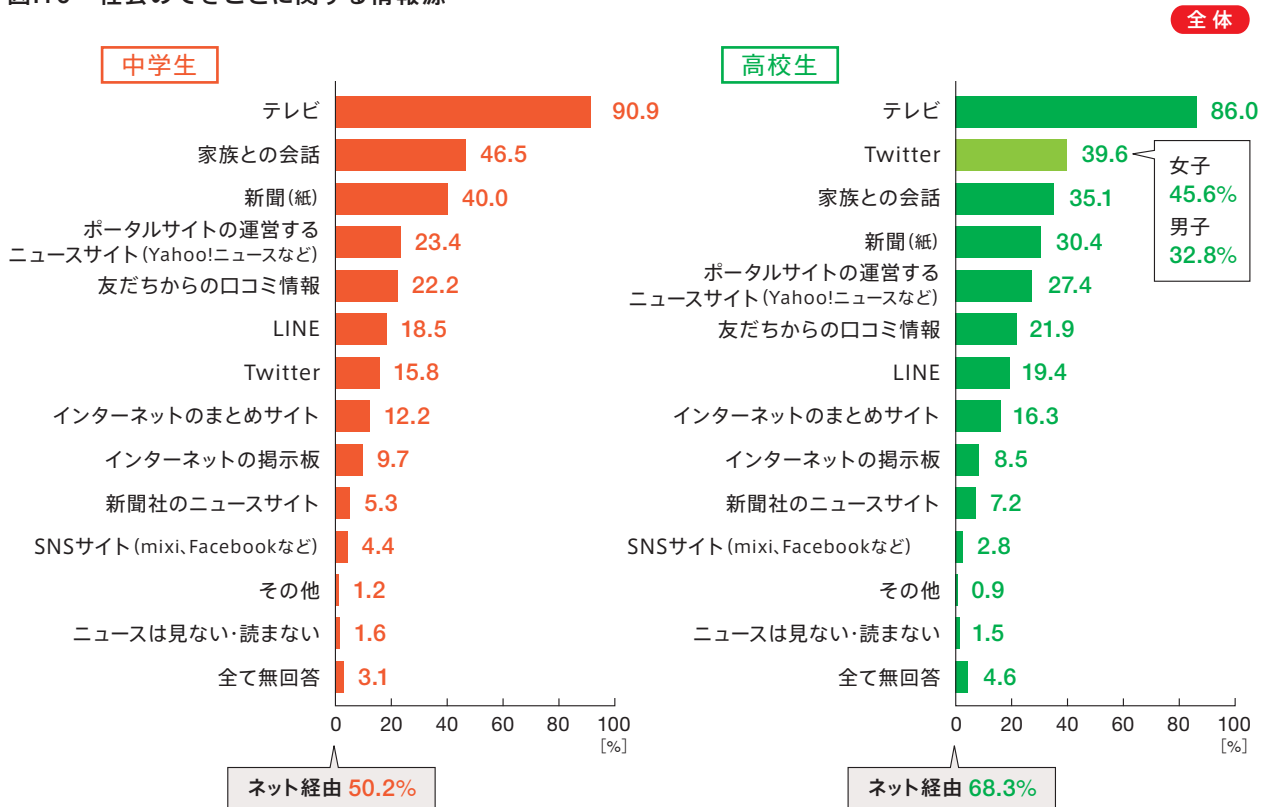


中高生の情報源は「テレビ」が約9割で最多。 高校生では「Twitter」が2番目に多く4割が利用。

ニュースなどの社会のできごとに関する情報源は、中学生ともテレビが最も多く(中学生90.9%、高校生86.0%)、次いで中学生は「家族の会話」(46.5%)、高校生は「Twitter」(39.6%)が高い。「Twitter」の利用は高校生女子で45.6%と半数近くにのぼっている。「新聞(紙)」は中学生40.0%だが高校生では30.4%に下がっている。さらにその中でもっともよく利用しているものを1つだけたずねた結果では、「テレビ」が最も多かった(表02)。情報入手経路は多様化しているものの、テレビの影響はいまだに大きいようだ。

Q あなたはふだん、ニュースなど社会のできごとに関する情報を何から入手していますか。
※この1週間に利用したもの。

図.10 社会のできごとに関する情報源



注) 「ネット経由」とは「新聞社のニュースサイト」「ポータルサイトの運営するニュースサイト」「LINE」「Twitter」「SNSサイト(mixi, Facebookなど)」「インターネットの掲示板」「インターネットのまとめサイト」のいずれかに該当する割合。

Q その中でふだんもっともよく利用しているのは何ですか。

表.02 もっともよく利用している情報入手経路(上位3項目)

中学生 [%]			高校生 [%]		
1	テレビ	70.6	1	テレビ	59.5
2	新聞(紙)	4.7	2	Twitter	11.2
3	LINE	4.3	3	ポータルサイトの運営するニュースサイト(Yahoo!ニュースなど)	6.4

注) 対象は、図10で「ニュースは見ない・読まない」「全て無回答」以外の中学生3,052名、高校生5,886名。

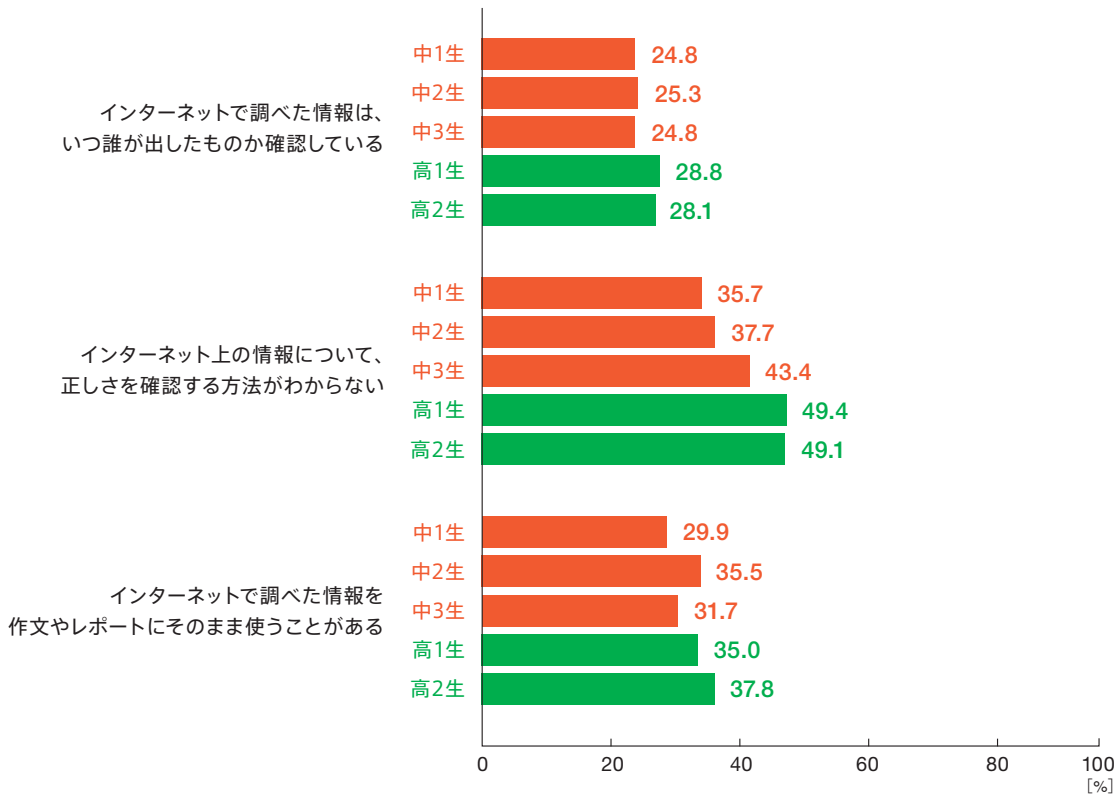
高校生の5割が、 「インターネット上の情報の正しさを確認する方法がわからない」。

情報リテラシーについてたずねたところ、「インターネットで調べた情報は、いつ誰が出したのか確認している」のは中学生で約4分の1、高校生で約3割であった。「インターネット上の情報について、正しさを確認する方法がわからない」は、中学生で約3分の1、高校生では半数がそう答えている。また、「インターネットで調べた情報を作文やレポートにそのまま使うことがある」も中高生の約3分の1が肯定している。

Q インターネットの情報を利用するにあたり、
あなたには次のようなことがどれくらいあてはまりますか。

図.11 情報リテラシー（学年別）

インターネット利用者



注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%

注2) 選択肢は、「とてもあてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4択。

注3) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。

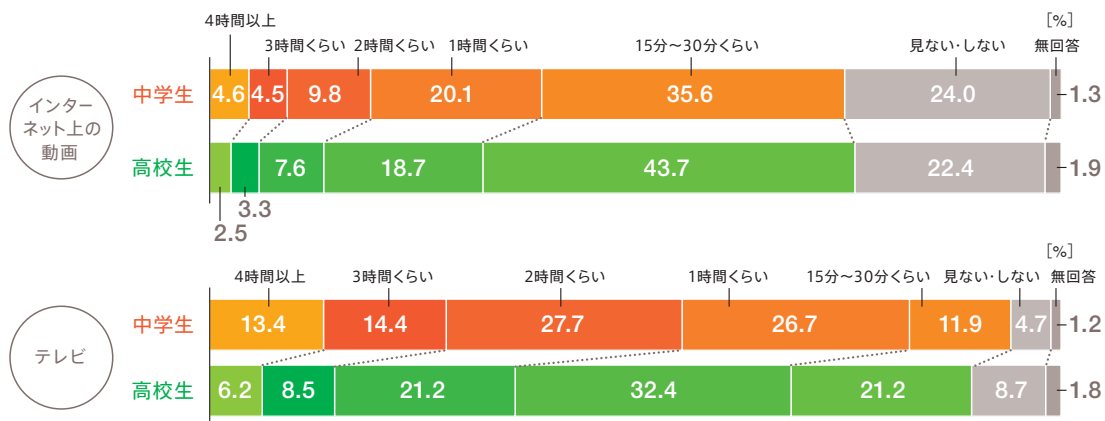
15%前後の中高生は、 テレビよりインターネット動画視聴の時間が長い。

平日のインターネット上の動画とテレビの視聴時間は、ネット動画もテレビも全般に中学生の方が長時間視聴の割合が多くなっている。ネット動画は中学生の約1割が「3時間以上」（「3時間くらい」+「4時間以上」）見ている。次に、ネット動画とテレビのどちらを長く見ているのか、回答時間の差異から3つのケース「ネット動画の方が長い」「ネット動画とテレビが同時間」「テレビの方が長い」に分けた結果が図13である。テレビより「ネット動画の方が長い」のは中学生14.3%、高校生16.8%であった。

Q 平日（学校がある日）に次のようなことをどれくらいしていますか。
1日のだいたいの時間を教えてください。

図.12 インターネット上の動画（Youtube、ニコニコ動画など）とテレビをみる時間

全体



注) 「4時間以上」は「4時間くらい」+「4時間より多い」の合計の割合を表す。

図.13 ネット動画とテレビの視聴時間の比較

全体



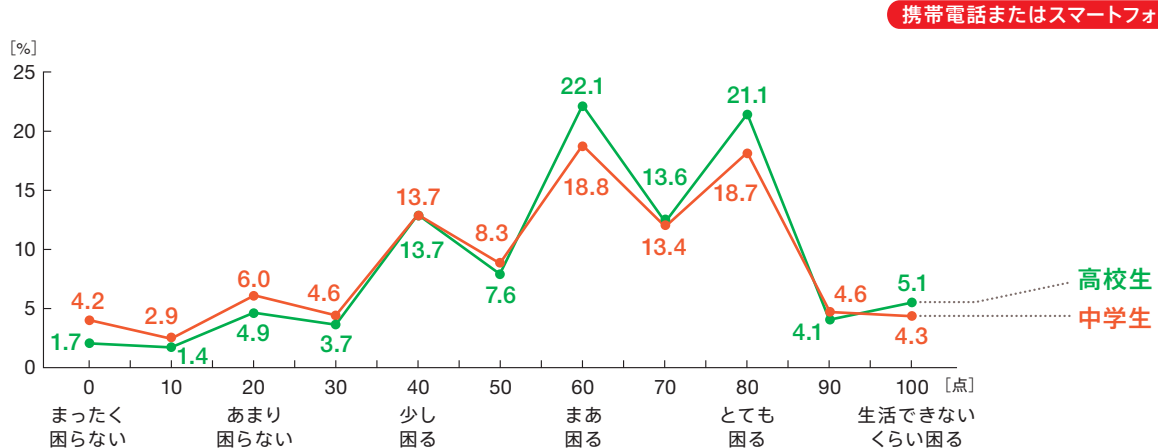
注) 「見ない・しない」を0、「15分くらい」を0.25…「4時間くらい」を4、「4時間より多い」を5として、ネット動画とテレビの視聴時間の差を算出し、「動画>テレビ」「動画=テレビ」「動画<テレビ」の3つの区分に分けた。

「とても困る」～「生活できないくらい困る」と感じているのは約3割。

携帯電話やスマートフォンがなくなったらどれくらい困るかを点数でたずねたところ、「とても困る」(80点)が中高とも2割前後、「生活できないくらい困る」(100点)が5%前後であった。さらに、「生活できないくらい困る」と回答した中高生についてその理由をみると(表03)、「親や友だちとの連絡、つながり・コミュニケーションがなくなること」に関する内容が約4割で多く、次いで「情報収集ができなくなる」「退屈になる」といった内容が約1割で多かった。

Q もし今の生活から携帯電話やスマートフォンがなくなると、どれくらい困りますか。「まったく困らない」を「0点」、「生活できないくらい困る」を「100点」として教えてください。

図.14 携帯電話やスマートフォンがなくなると困る度合い



注) 対象は、携帯電話またはスマートフォンによるネットアクセス者 中学生1,573名、高校生5,750名。

Q またその理由を簡潔にお答えください。

表.03 「生活できないくらい困る」と回答した人の理由(中学生・高校生)

カテゴリ	フリーアンサー内容	割合
親や友だちとの連絡、つながり・コミュニケーションがなくなること	家族や友達と連絡がとれなくなり、世間から隔絶されてしまう気がする/学校がちがう友達や親との連絡手段がないから/スマホがないとみんなの行動がわからなくなるから/誰でも連絡とれなくなり、不安だから/LINEで知り合った友達、家族などと連絡が取れなくなるととても辛い/友達とのまちあわせ等で、とてもかかせない物だから	4割
情報収集ができなくなる	情報収集の手段だから/情報についていけなくなる/情報が無いと他の人に遅れをとってしまうため/知りたいことをすぐ知れないから/生きていく上での大切な情報網だから。	1割
退屈になる	なにをしたらよいかわからなくなり暇になる/楽しみがなくなる/連絡とれないし、暇になる/つまらない	1割
娯楽・趣味がなくなる	娯楽がなくなる/音楽が聴けなくなる・ゲームができない/ 好きなアーティストの情報が入ってこないから/動画が見れない	1割弱
生活の一部、体の一部だから	もはや生活の一部だから/小1から持っているから人生の一部/スマホは体の一部	1割弱
その他	時計などもスマートフォンに頼っているから/予定の管理をスマホで行っているため/ もしも災害や事故がおこった時に連絡がとれないから/持っていないと不安、イライラする	—

注1) カテゴリは回答結果からまとめたもの。

注2) 割合は、「生活できないくらい困る」と回答した中高生393名に占める回答数の割合。複数の観点が含まれる場合は複数のカテゴリにカウントしている。

chapter 2

オンライン上のつながり・コミュニケーション

中高生は、オンライン上でどんな人とどのようにコミュニケーションをしているのでしょうか。中高生のオンライン上のネットワークはふだんの学校などの人間関係の延長だけでなく、ネット利用者の4分の1にオンライン上の知り合いがいることがわかりました。また、中高生の5人に1人は、趣味に関する情報発信やコミュニティに参加しています。

オンライン上のネットワークが広がる中で、「メールがきたらすぐに返事を出す」人が半数を超え、コミュニケーションを大事にしている様子が見え始める一方で、「メールのやりとりが嫌になることがある」と感じている人も少なくありません。楽しさの反面、煩わしさも感じているようです。

そんな中高生のオンライン上のコミュニケーションの様子をのぞいてみましょう。

Contents

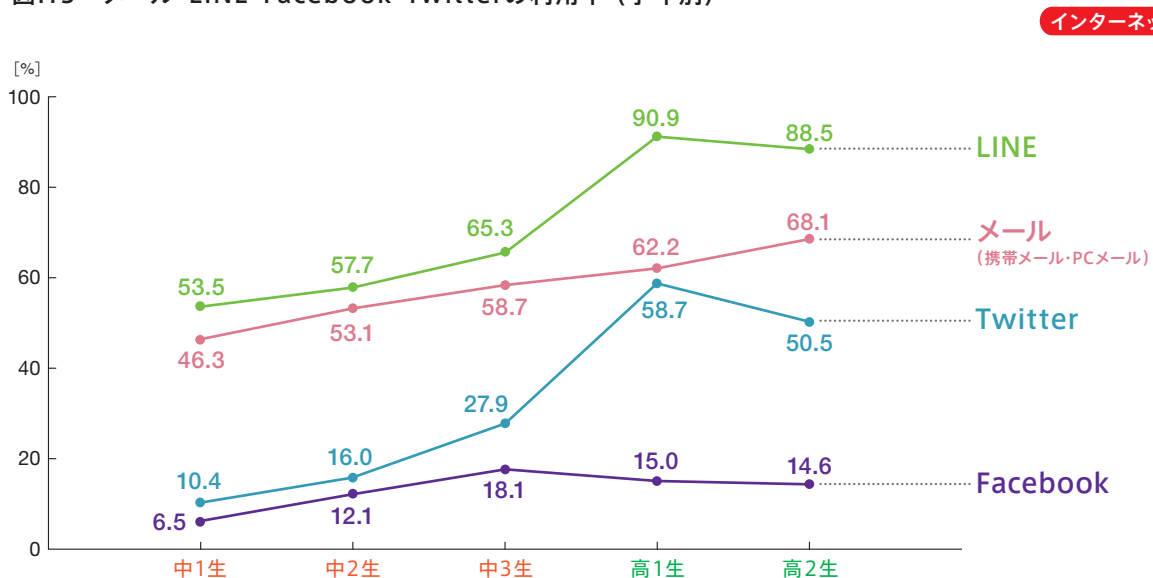
2-1	メール、LINE、Facebook、Twitter、 どれを使ってる？	17
2-2	オンライン上で誰とつながっている？	18
2-3	オンライン上で知り合った人と 会ったことのある割合は？	19
2-4	オンライン上のコミュニケーションについて どう感じている？	20
2-5	自ら投稿や発信をしていますか？	21
2-6	趣味でつながっている？	22
2-7	インターネットやICTメディアの影響、 あなたの考えはどっち？	23
column	趣味でつながる中高生の世界	24

LINEは中1で5割超、高校生では約9割が利用。 Twitterも高校生では5割を超える。

メール(携帯メール・PCメール)、LINE、Facebook、Twitterの利用率は、中高生とも、「LINE」と「メール(携帯メール・PCメール)」の利用が多いが、高校生では、「LINE」が9割にのぼり、「Twitter」も5割を超える。さらに、その組合せをみたものが図15である。中学生では、どれも利用していない(=「あてはまるものはない」)が最も多いが、次いで「メール+LINE」の併用が2割、高校生では、「メール+LINE+Twitter」「メール+LINE」の組合せがいずれも2割強で多くなっている。

Q あなたはふだん、友だちとコミュニケーションをする時に次のようなものを利用していますか。

図.15 メール・LINE・Facebook・Twitterの利用率(学年別)



注) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。

表.04 メール・LINE・Facebook・Twitterの利用組合せ(上位7つ)

インターネット利用者

中学生	[%]	高校生	[%]
あてはまるものはない	21.7	メール + LINE + Twitter	23.9
メール + LINE	20.7	メール + LINE	23.4
LINEのみ	17.2	LINE + Twitter	17.0
メールのみ	15.9	LINEのみ	10.9
メール + LINE + Twitter	7.0	メール + LINE + Facebook + Twitter	8.3
メール + LINE + Facebook + Twitter	3.7	メールのみ	6.7
LINE + Twitter	3.6	LINE + Facebook + Twitter	4.4

注) 対象は、中学生2,796名、高校生6,070名。

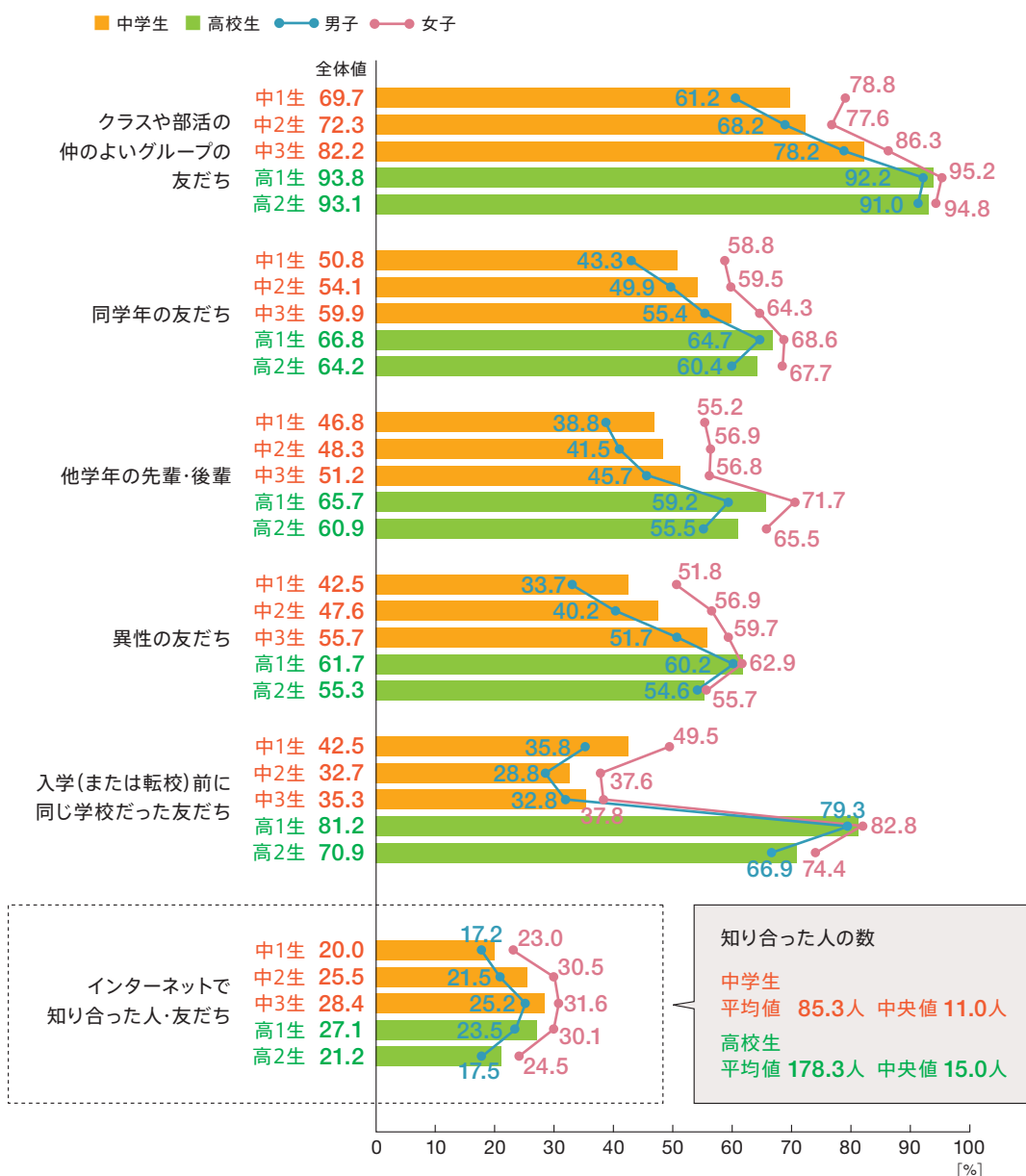
インターネットで知り合った友だちがいる割合は 中3が最も多く28.4%、女子では31.6%に。

メールやSNSなどでのつながりの範囲についてたずねた。「クラスや部活の仲のよいグループの友だち」とつながっている割合は、中1生で7割、高校生では9割を超え、「他学年の先輩・後輩」や「異性の友だち」とのつながりも、中学生で4～5割台、高校生では5～6割台がつながりをもっている。また、「インターネットで知り合った人・友だち」がいる割合は、いずれの学年も2割以上で、最も高いのは中3生の28.4%である。性別にみるとどの項目でも女子の方が高くなっている。

Q あなたはふだん、次のような人とメールやチャット(LINEなど)やSNS(mixi、Facebookなど)、Twitterでつながっていますか。

図.16 オンライン上のつながりの有無

インターネット利用者



注) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。

インターネット上で知り合った人や友だちがいる人のうち、 会ったことのある割合は中学生23.6%、高校生34.7%。

インターネットで知り合った人がいる人のうち、直接会った経験のある人の割合は、中学生23.6%、高校生34.7%である。高校生の方が実際に会った割合が高い。これを、インターネット利用者に占める割合で見ると、中学生は5.8%、高校生は8.4%にあたる。会った人と知り合ったきっかけは、中学生では「チャット(LINEなど)のグループ」、高校生では「Twitter」が多くなっている。

Q インターネットを通じて知り合った人と、直接会ったことがありますか。
また、会ったことがある人は、これまで会った人数、知り合ったきっかけをご記入ください。

図.17 オンライン上で知り合った人と会った経験・人数

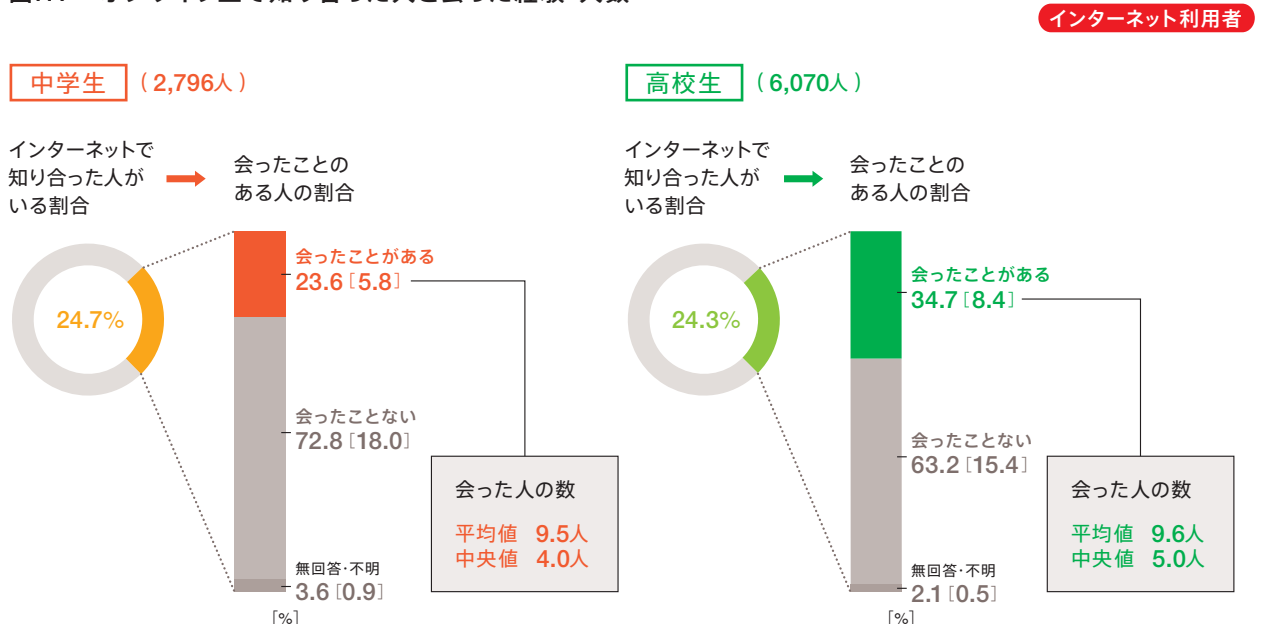
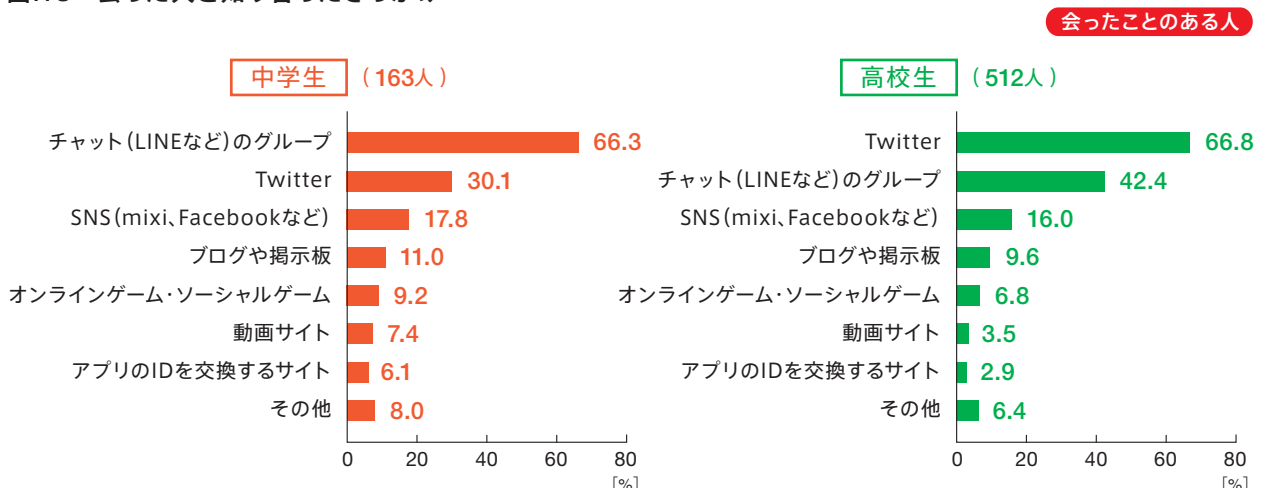


図.18 会った人と知り合ったきっかけ



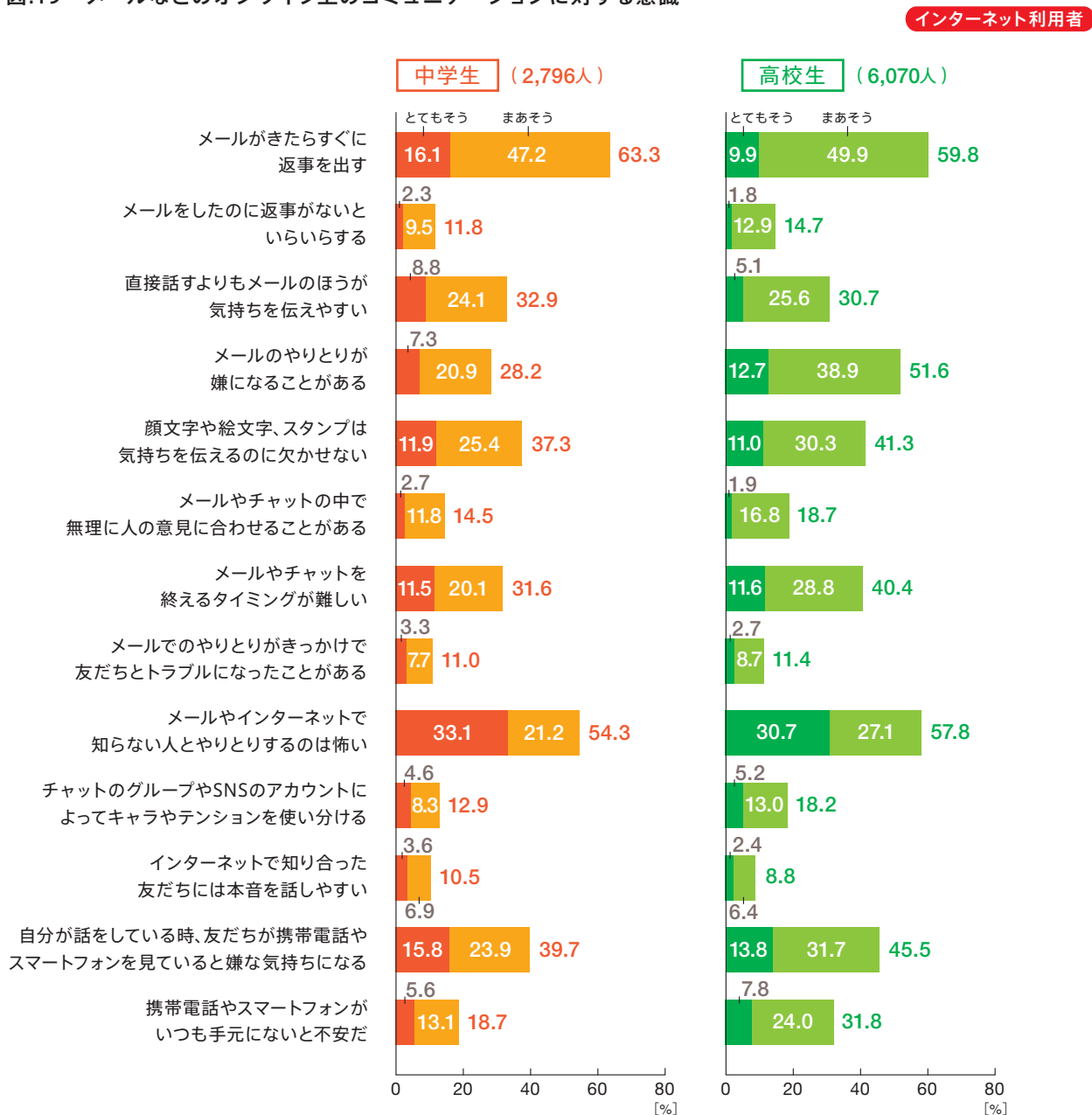
メールやSNSを利用している高校生の半数が「メールのやりとりが嫌になることがある」。

メールなどのオンライン上のコミュニケーションに関して、「メールがきたらすぐに返事を出す」のは、インターネット利用者のうち、中学生63.3%、高校生59.8%（「とてもそう」+「まあそう」の%、以下同）とコミュニケーションを大切にしている様子がうかがえる一方で、「メールのやりとりが嫌になることがある」（中学生28.2%、高校生51.6%）や「メールやチャットを終えるタイミングが難しい」（中学生31.6%、高校生40.4%）と煩わしさを感じている中高生も少なくない。また、「メールでのやりとりがきっかけで友だちとトラブルになったことがある」のは中高生ともに1割程度であった。

Q 次のようなことはあなたにどれくらいあてはまりますか。

※「メール」にはチャット（LINEなど）やSNSの個人宛のメッセージも含まれます。

図.19 メールなどのオンライン上のコミュニケーションに対する意識



情報共有や共感、投稿は高1女子が最も活発。

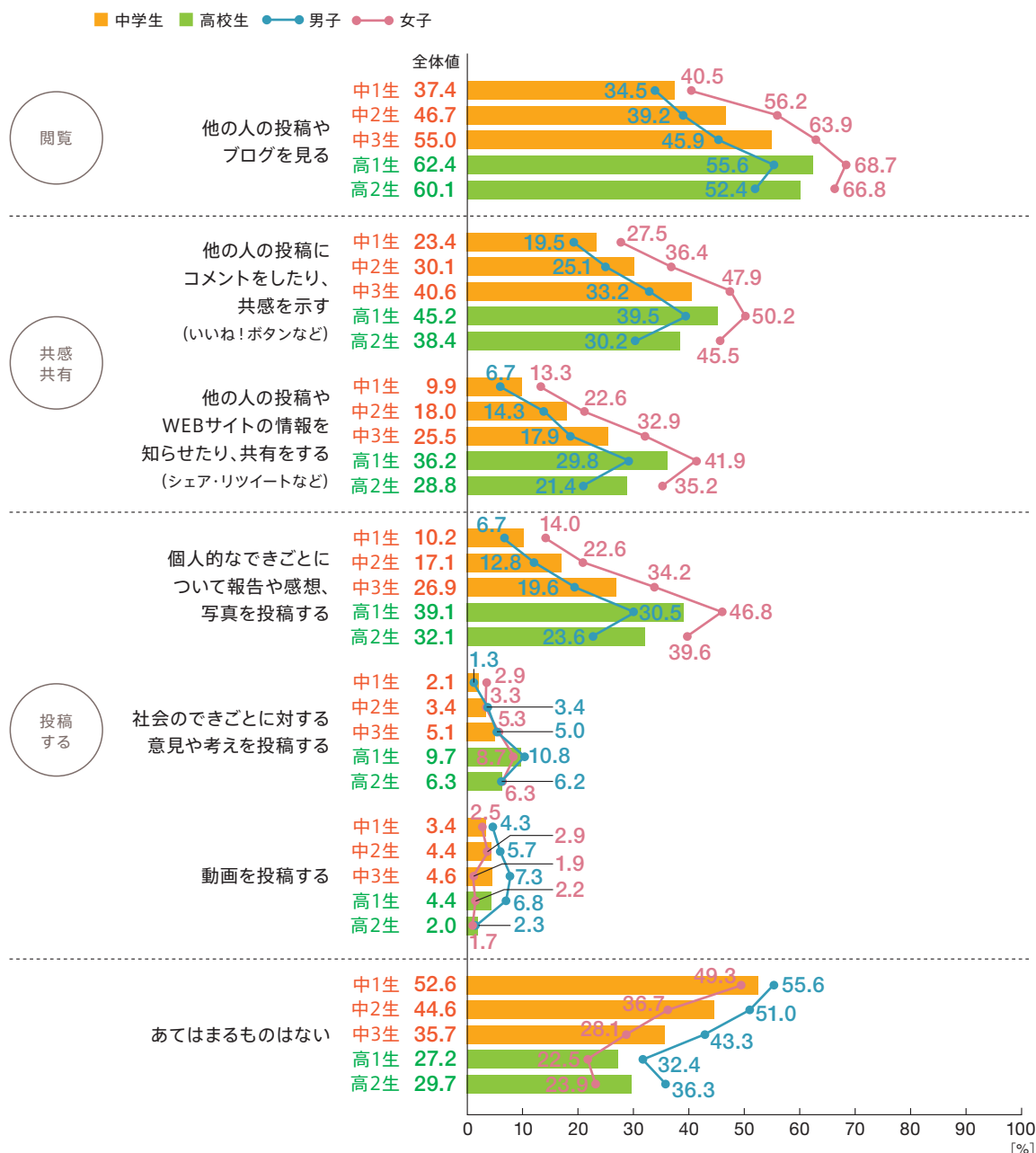
社会のできごとに対する考えや動画の投稿は中高生とも1割に満たない。

「他の人の投稿やブログを見る」ことや、「他の人の投稿にコメントをしたり、共感を示す」「他の人の投稿やWEBサイトの情報を知らせたり、共有をする」といった共感、共有は、女子の方が全般に行っている割合が高い。自らの投稿については、「個人的なできごと」について投稿を行っているのは高1生で4割で、これも女子が高い。一方、「社会のできごと」に対する投稿をしている割合は、最も多い高1生でも1割程度で、どの学年でもおしなべて低い。「動画を投稿する」もわずかであった。

Q あなたはふだん、インターネットを使って次のようなことをしていますか。

図.20 情報の共有や発信（学年別）

インターネット利用者



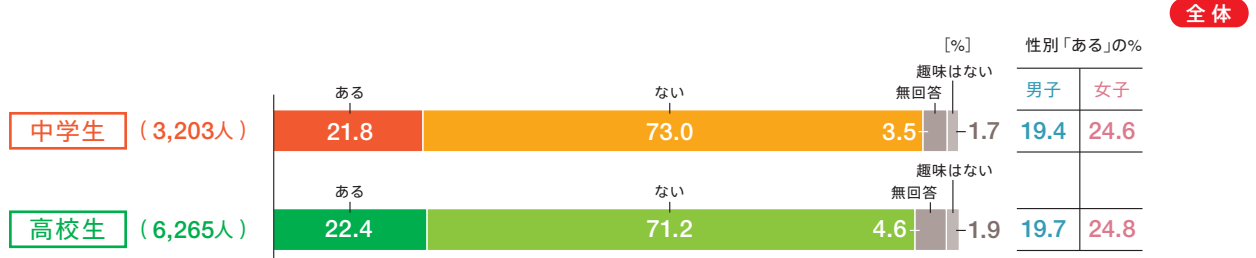
注) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。

中高生の2割はオンライン上で趣味のつながりをもつ。 男子は「ゲーム」、女子は「タレントやアーティストの情報収集」。

中高生の趣味のうち、ネット上で趣味の情報発信やコミュニティへの参加を行っている人の割合は、中高生とも全体で約2割であった。男子より女子が高く、約4分の1が該当する。さらにその趣味の内容をたずねたところ、多いのは、中高生とも1位が男子は「ゲーム」、女子は「好きなタレントやアーティストの情報収集やコンサートに行く」であった。特に高校生女子は「好きなタレントやアーティスト」関連のつながりが4割と高くなっている。

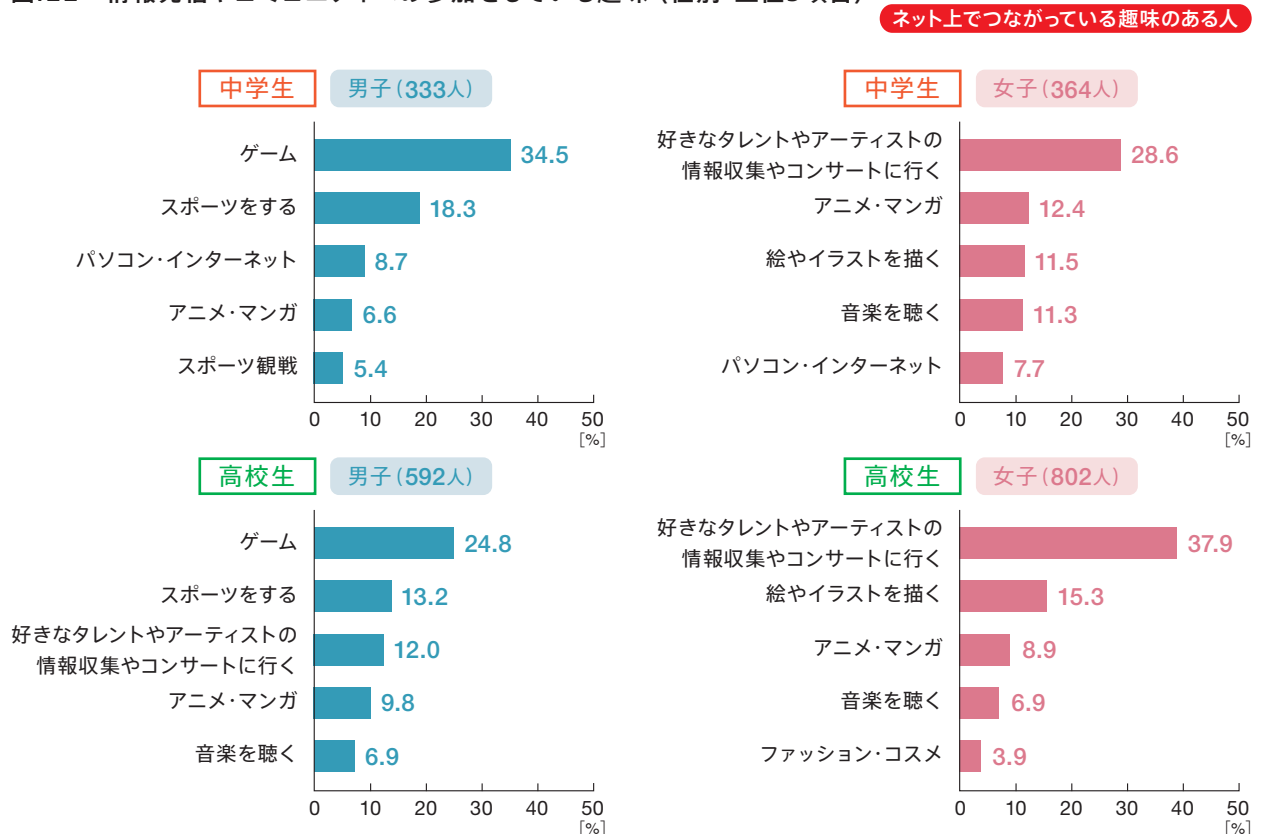
Q あなたの趣味のうち、インターネット上で、あなたが情報や作品などを発信したり、趣味のグループやコミュニティに参加しているものはありますか。

図.21 趣味の情報発信やコミュニティへの参加の有無（全体・性別）



注) 対象は、中学男子1,717名、中学女子1,482名、高校男子3,001名、高校女子3,238名。

図.22 情報発信やコミュニティへの参加をしている趣味（性別・上位5項目）



注) この質問は、最初に趣味全般をたずね、次に、そのうち「インターネット上で情報発信やコミュニティへの参加をしている趣味」をたずねた結果である。そのため、「スポーツをする」と「スポーツ観戦」はあらかじめ分けてたずねている。

「携帯電話やスマホはコミュニケーションの力を伸ばすと思わない」が半数を超える。

「インターネットと覚えることの必要性」と「携帯電話・スマートフォンのコミュニケーション力への影響」について考えをたずねた。前者については「インターネットで調べられることでも、できるだけ覚えておいたほうがよい」が中高生とも6割超で、08年に実施した調査結果*とあまり変化はみられない。一方、後者は「コミュニケーションの力を伸ばすと思わない」が中高生とも増加した。これは、08年は「携帯電話」しかなかったが、「スマートフォン」の登場により、コミュニケーションの形が変化していることが影響しているのではないかと推察される。

Q 次のような2つの意見について、あなたの考えに近いものはどちらですか。

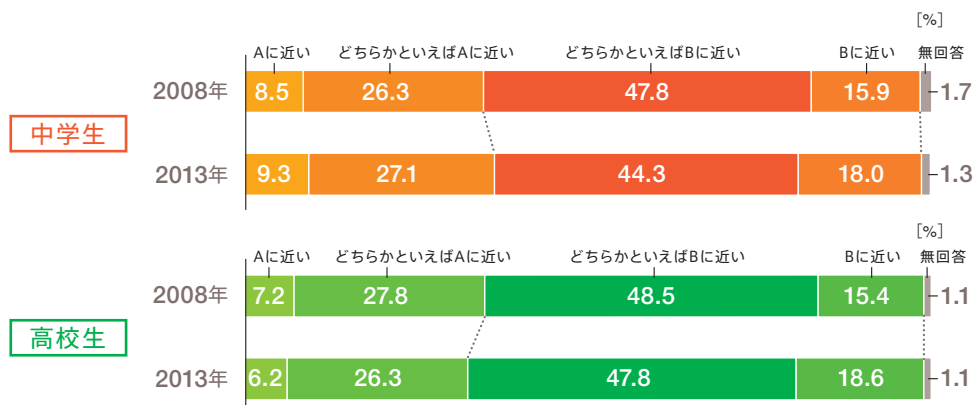
図.23 インターネットやICTメディアに対する意識

全体

① インターネットと覚えること

A：インターネットで調べられることは、無理に覚える必要はない

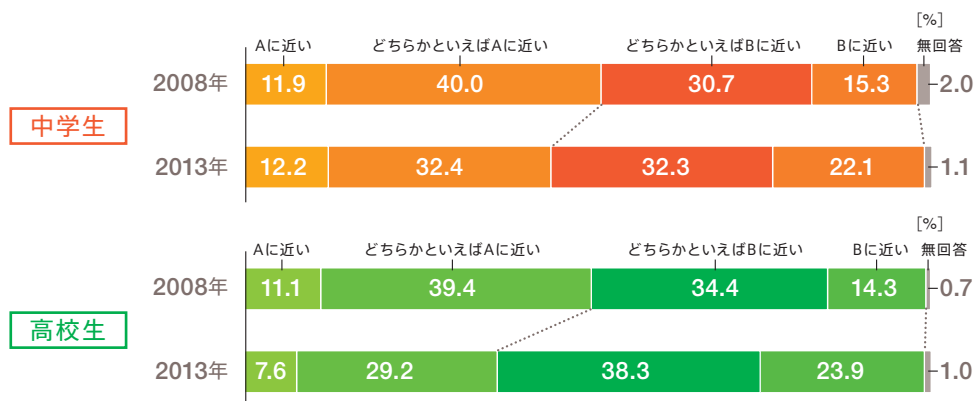
B：インターネットで調べられることでも、できるだけ覚えておいたほうがよい



② 携帯電話・スマートフォンとコミュニケーション力

A：携帯電話やスマートフォンはコミュニケーションの力を伸ばすと思う

B：携帯電話やスマートフォンがコミュニケーションの力を伸ばすとは思わない



注1) 「②携帯電話・スマートフォンとコミュニケーション力」について、

2008年は「携帯電話はコミュニケーションの力を伸ばすと思う／伸ばすと思わない」としてたずねている。

注2) サンプル数は、08年：中学生3,298名、高校生3,823名、13年：中学生3,203名、高校生6,265名。

*2008年の「子どものICT利用実態調査」については、ベネッセ教育総合研究所のWEBサイト (<http://berd.benesse.jp/>) を参照。



趣味でつながる 中高生の世界

今回の調査結果から、インターネット上で趣味の情報や作品を発信したり、趣味のグループやコミュニティへの参加といったオンライン上の趣味のつながりをもつ中高生が2割いることがわかった。趣味の内容は、男子が「ゲーム」女子は「タレントやアーティストの情報収集」が多い(p22参照)。ここでは、オンライン上のつながりをもっている子どもたちにどのような特徴があり、どのようにICTメディアを使っているのか、詳しくみてみよう。

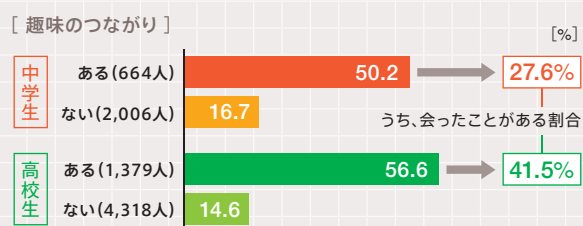
趣味のつながりのある人は ネット上で知り合った友だちが多い

「ネット上で知り合った人・友だち」がいる割合は、**高校生で56.6%、中学生で50.2%**

趣味のつながりのある中高生の約半数は「ネットで知り合った人・友だちがいる」と答えており、そのうち高校生では41.5%、中学生では27.6%が実際に会ったことがあると答えている。趣味のつながりのある人は、オンライン上での人とのつながりをもつ割合が高いのに加えて、オフラインにも移行しやすいことがわかる。

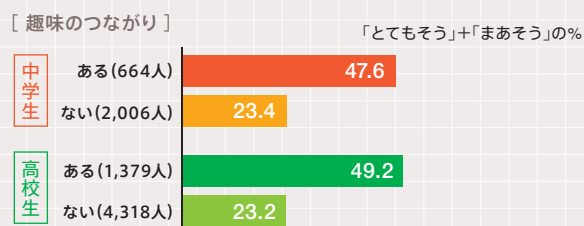
また、意識面についても、趣味のつながりのある人は、そうでない人に比べて「インターネットやメールでたくさんの人とつながりたい」と思っている人が多く、約半数がそう感じている。単に趣味をもっているだけでなく、こうした人間関係やコミュニケーションの志向性がネット上での活動の活発度に影響を与えていることが推察される。

■ インターネットで知り合った人・友だちがいる割合



注) 対象は「インターネット利用者」。以下同様。

■ 「インターネットやメールでたくさんの人とつながりたい」



高い「Twitter」の利用率

高校生のフォロワー数の平均は381人

趣味のつながりのある人となない人を比較して特徴的なのは「Twitter」の利用率の違いである。趣味のつながりのある人は、「Twitter」を「ほぼ毎日」使っている人が高校生で62.4%、趣味のつながりのない人の33.3%の倍近くとなる。中学生は全体として「Twitter」の利用率が低いものの、趣味のない人が9.3%であるのに対し、趣味のある人は33.4%と顕著に高い。「Twitter」が趣味に関する情報収集や発信のツールとして利用されている面があるのだろう。

さらに、高校生のTwitterのフォロワー数を見ると、趣味のある人は平均381.3人で、趣味のない人が277.0人であるのに対し大きな違いがみられる。一方、「LINE」でつながっている友だちの数は、趣味のつながりのある人では143.8人、ない人では116.0人とやはり趣味のつながりのある人が高いが、「Twitter」ほどの違いはみられない。また、調査では、「話をしたり一緒に遊んだりする友だち」「悩みを相談する友だち」といったリアルを中心とした友だちの数についてもたずねているが、それらにはほとんど差がなく、趣味のつながりやネット上でつながっている人の数は、リアルの友人関係にはあまり影響を与えていないようである(下表)。

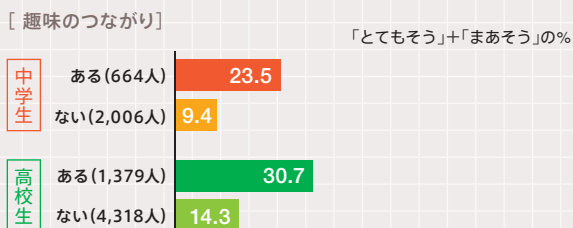
また、高校生では、趣味のつながりのある人の3分の1が「チャットのグループやSNSのアカウントによってキャラやテンションを使い分ける」と答えていることも特徴的だ。リアルの延長のつながりと趣味のつながりで見せる顔は異なっているのかもしれない。

■ Twitterのフォロワー数・LINEの友だち数と「話をしたり遊んだりする友だち」の数(高校生)

趣味のつながり	Twitter フォロワー数		LINEの 友だちの数		話をしたり 一緒に遊んだり する友だちの数	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない
平均値(人)	381.3	277.0	143.8	116.0	30.8	29.1
中央値(人)	200.0	139.0	110.0	100.0	15.0	10.0

注) 中学生にはたずねていない。

■ 「チャットのグループやSNSのアカウントによってキャラやテンションを使い分ける」

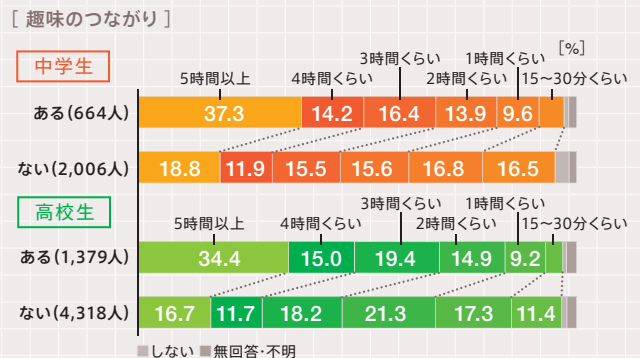


インターネットの利用時間は長時間

休日は3分の1が5時間以上利用

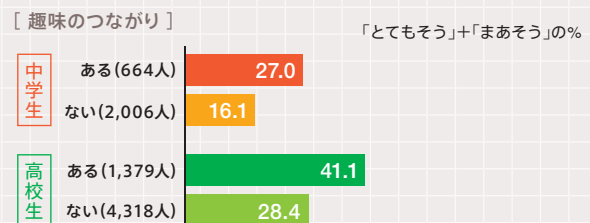
しかしながら、趣味のつながりのある人のインターネットの利用時間は、休日で「5時間以上」が3分の1と長時間利用の割合が高く、「携帯電話やスマートフォンがいつも手元にないと不安だ」という質問に対して肯定する回答が、高校生で4割と、趣味のない人より高い傾向がみられている。もちろん、趣味によっても状況は異なり、つながっている趣味が「ゲーム」の場合はゲームの利用時間が長いのは当然のことながら、「タレントやアーティストの情報収集」の場合は、ネット時間の他にも「テレビを見る時間」も長い傾向がみられている(図は省略)。

■ インターネットの利用時間



注) 「5時間以上」は「5時間くらい」と「5時間より多い」の合計の割合を表す。

■ 「携帯電話やスマートフォンがいつも手元にないと不安だ」



インターネット上での趣味のつながりは、学校や住んでいる場所などの環境的な制約を受けずに、自分と興味・関心と同じくする人とつながって交流することができることや趣味や好きなことに関して表現する場をもてるといったメリットのある一方で、利用が長時間になりがちで依存的な傾向を示す割合も相対的に高くなっている。

現在は中高生の2割程度に過ぎないが、今後ネット上のコンテンツ・サービスの充実やスマートフォンなどの普及が一層進めば、このようなつながりをもつ中高生が増えていく可能性は高い。こうしたオンライン上の世界が今後どの程度広がり、中高生の生活や文化にどのような影響を与えていくのか注目していきたい。

ベネッセ教育総合研究所 吉本 真代

3

chapter

学習とメディア利用

多くの保護者が「子どものメールやインターネットの利用時間が長くなると、成績が下がるのではないかと心配しているという声を聞きます。たしかにメールやインターネットの利用時間が長くなることによって、勉強時間や睡眠時間が短くなり、それが間接的に学習にマイナスの影響を与えているということは考えられます。

しかし今の子どもたちは、生活面だけでなく学習面でもメールやインターネットを活用し、さまざまな情報交換をしています。勉強中に全くスマートフォンや携帯を利用させないことは、かえって子どもの成長や学習の面でマイナスの影響を与えるかもしれません。

「適切な使い方」といったことがよく言われますが、そもそも今の子どもたちは学習の際にどのような機能を利用しているのでしょうか。そしてその利用行動が学習に与える影響はどの程度のものなのでしょうか。

この章では、以上のような不安や疑問についてデータをみながら考えていきます。

Contents

3-1	インターネットの利用時間は成績層で違う？	27
3-2	学習の時にインターネットやメールで何をしている？	28
3-3	学習時のメディア利用と成績の関係は？	29
3-4	何をしながら勉強している？ —学習時の「ながら行動」の実態—	30
3-5	学習時の「ながら行動」と成績の関係は？	31
column	「普段の学習スタイル」が メディア利用に与える影響	32

3

chapter

学習とメディア利用

多くの保護者が「子どものメールやインターネットの利用時間が長くなると、成績が下がるのではないかと心配している」という声を聞きます。たしかにメールやインターネットの利用時間が長くなることによって、勉強時間や睡眠時間が短くなり、それが間接的に学習にマイナスの影響を与えているということは考えられます。

しかし今の子どもたちは、生活面だけでなく学習面でもメールやインターネットを活用し、さまざまな情報交換をしています。勉強中に全くスマートフォンや携帯を利用させないことは、かえって子どもの成長や学習の面でマイナスの影響を与えるかもしれません。

「適切な使い方」といったことがよく言われますが、そもそも今の子どもたちは学習の際にどのような機能を利用しているのでしょうか。そしてその利用行動が学習に与える影響はどの程度のものなのでしょうか。

この章では、以上のような不安や疑問についてデータをみながら考えていきます。

Contents

3-1	インターネットの利用時間は成績層で違う？	27
3-2	学習の時にインターネットやメールで何をしている？	28
3-3	学習時のメディア利用と成績の関係は？	29
3-4	何をしながら勉強している？ —学習時の「ながら行動」の実態—	30
3-5	学習時の「ながら行動」と成績の関係は？	31
column	「普段の学習スタイル」が メディア利用に与える影響	32

インターネットやメールの利用時間と成績の間に相関あり。

インターネットやメールの利用時間の長さや成績はどのような関係にあるのだろうか。その結果を成績別にみたものが、以下のグラフ(図24)である。中学生の結果をみると、成績上中位層は「1時間くらい」でもっとも比率が高くなるのに対し、成績下位層は「4時間以上」でもっとも比率が高い。全体的に成績が高い生徒ほど、メディア利用時間が短い傾向がみられる。この傾向は高校生の結果でも同様で、成績上位の生徒が多い進学校で、メディアの利用時間が短く、進路多様校で利用時間が長い。

Q あなたは平日にインターネットやメールをどれくらいしていますか。

図.24 1日あたりのメディア利用時間(インターネットやメールをする合計時間)と成績の関係(学校段階別)



注1) グラフでは調査項目「15分くらい」「30分くらい」を「30分以下」として、

「4時間くらい」「5時間くらい」「5時間より多い」を「4時間以上」にまとめて掲載している。

注2) 高校生の成績は、入学した高校の学科や入学時の生徒の学力水準によって大きく異なると考えられる。

そこで学校が公開している進学状況を参考に、高校を「進学校」「中堅校」「進路多様校」の3つのタイプに区分した。

高校生の5割が学習中に

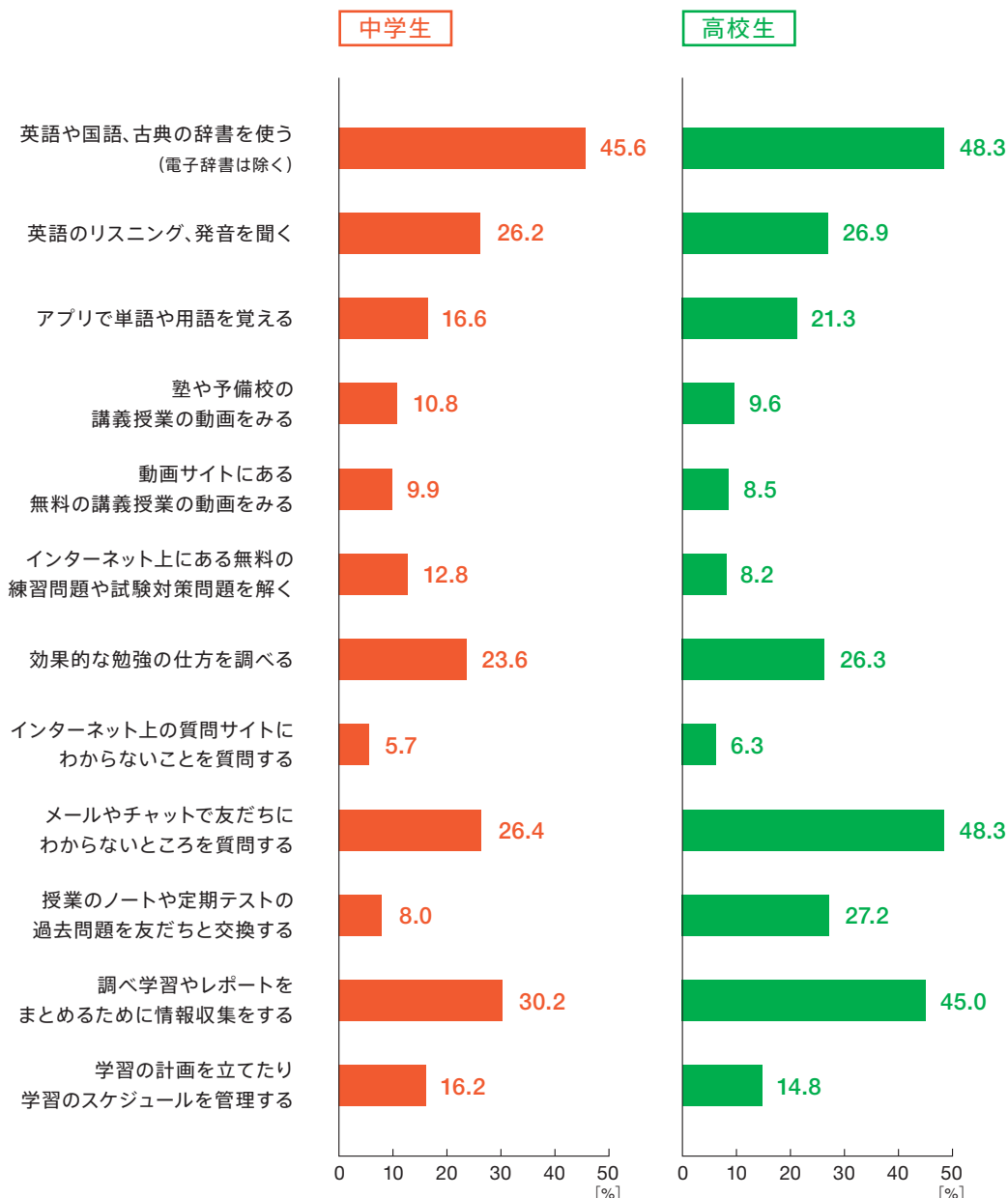
「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」。

中高生は学習時にインターネットやメールを使って何をしているのだろうか。中学生の上位3つは「英語や国語、古典の辞書を使う（電子辞書は除く）」(45.6%)、「調べ学習やレポートをまとめるために情報収集をする」(30.2%)、「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」(26.4%)である。高校生も上位3つの内容は中学生と変わらない。しかし「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」(48.3%)や「授業のノートや定期テストの過去問題を友だちと交換する」(27.2%)で20ポイント前後の増加がみられる。

Q あなたは、勉強する時にインターネットやメールを使って次のようなことをしますか。

図.25 学習時のインターネットやメールの利用内容

全体



注) 数値は「よくある」+「ときどきある」の%。

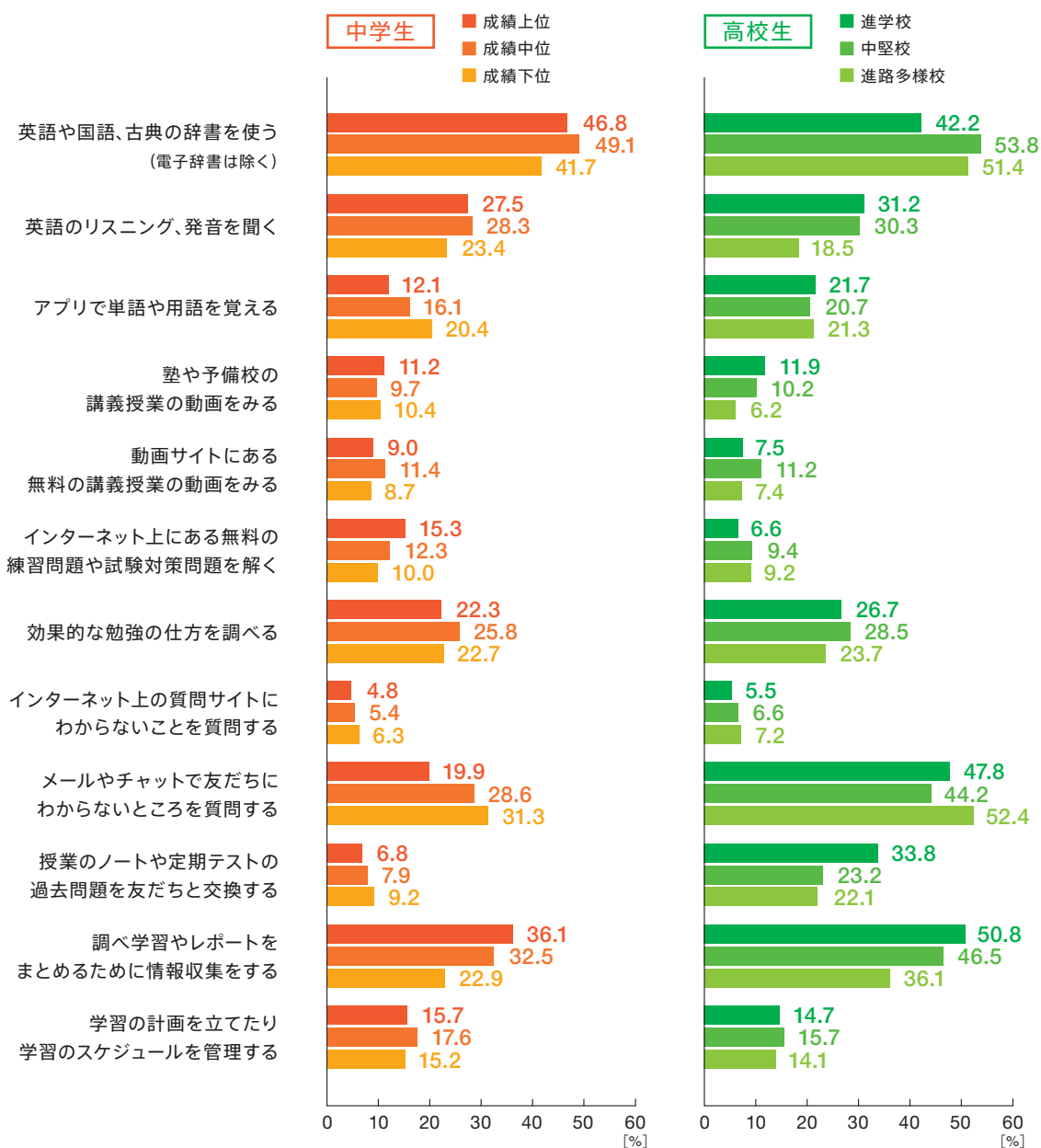
成績上位層はもちろん、成績中下位層でも、 さまざまな形で学習時にメディアを利用している。

成績によって学習時のインターネットやメールの利用内容に違いはあるのだろうか。図26はその結果を示したものである。中高生ともに「調べ学習やレポートをまとめるために情報収集をする」において成績による利用率の差がみられるが、全体的な利用傾向をみれば、成績層で体系的な違いはみられない。成績上位層はもちろん、成績中下位層でもさまざまな形で学習時にメディアを利用している。

Q あなたは、勉強する時にインターネットやメールを使って次のようなことをしますか。

図.26 学習時のインターネットやメールの利用内容（成績別）

全体



注1) 数値は「よくある」+「ときどきある」の%。

注2) 高校生の成績は、入学した高校の学科や入学時の生徒の学力水準によって大きく異なると考えられる。

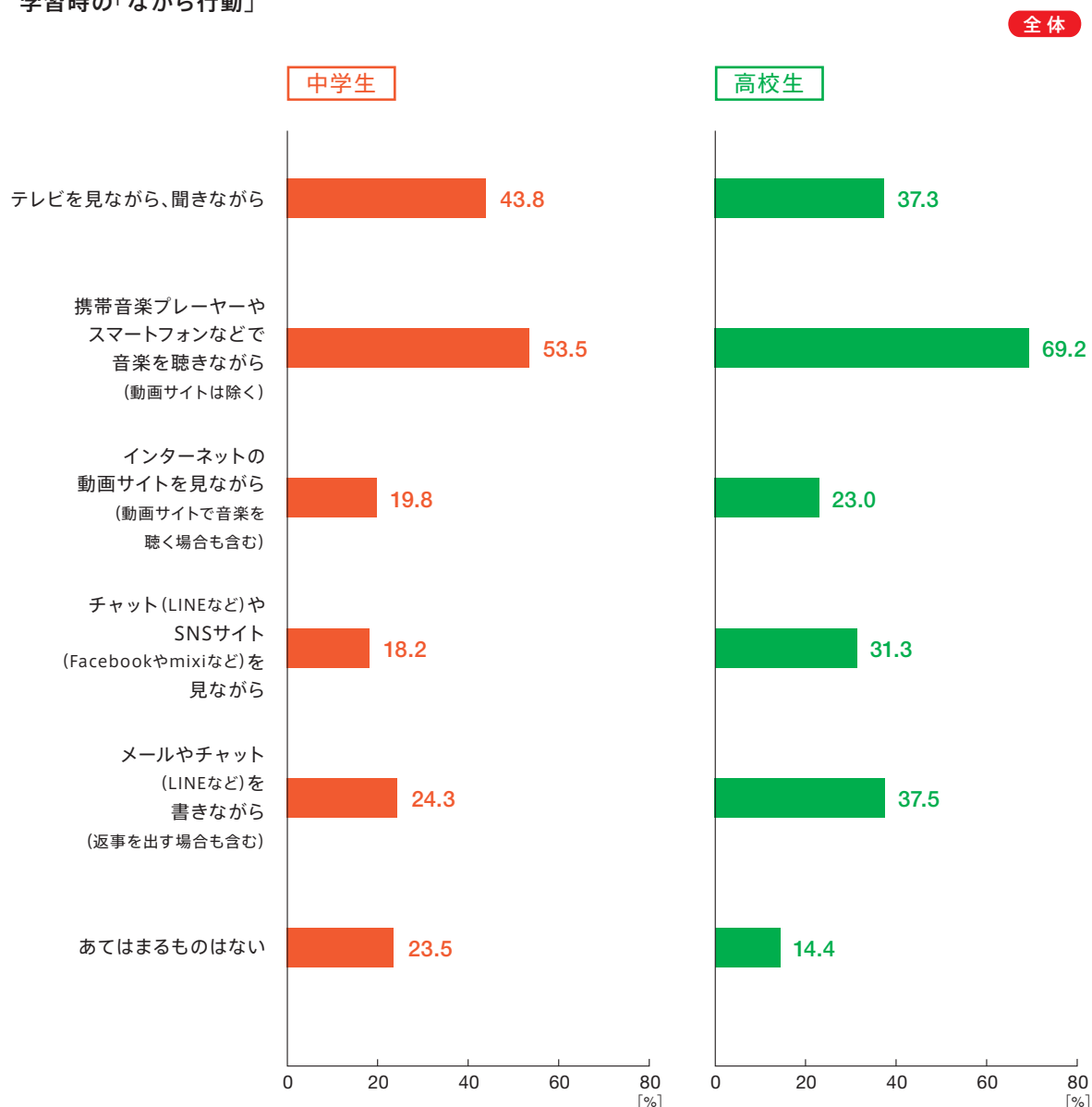
そこで学校が公開している進学状況を参考に、高校を「進学校」「中堅校」「進路多様校」の3つのタイプに区分した。

中学生の5割、高校生の7割が、 「携帯音楽プレーヤーやスマートフォンなどで音楽を聴きながら」勉強。

中高生の学習時の「ながら行動」(並行行動)の実態はどのようなものだろうか。その全体傾向を示したものが図27である。中高生で共通して比率が高いのは「携帯音楽プレーヤーやスマートフォンなどで音楽を聴きながら(動画サイトは除く)」で中学生53.5%、高校生69.2%。次に「テレビを見ながら、聞きながら」が4割前後、さらに「メールやチャット(LINEなど)を書きながら(返事を出す場合も含む)」が中学生で24.3%、高校生で37.5%と続いている。

Q あなたは、家で、次のようなことをしながら勉強をすることがありますか。

図.27 学習時の「ながら行動」



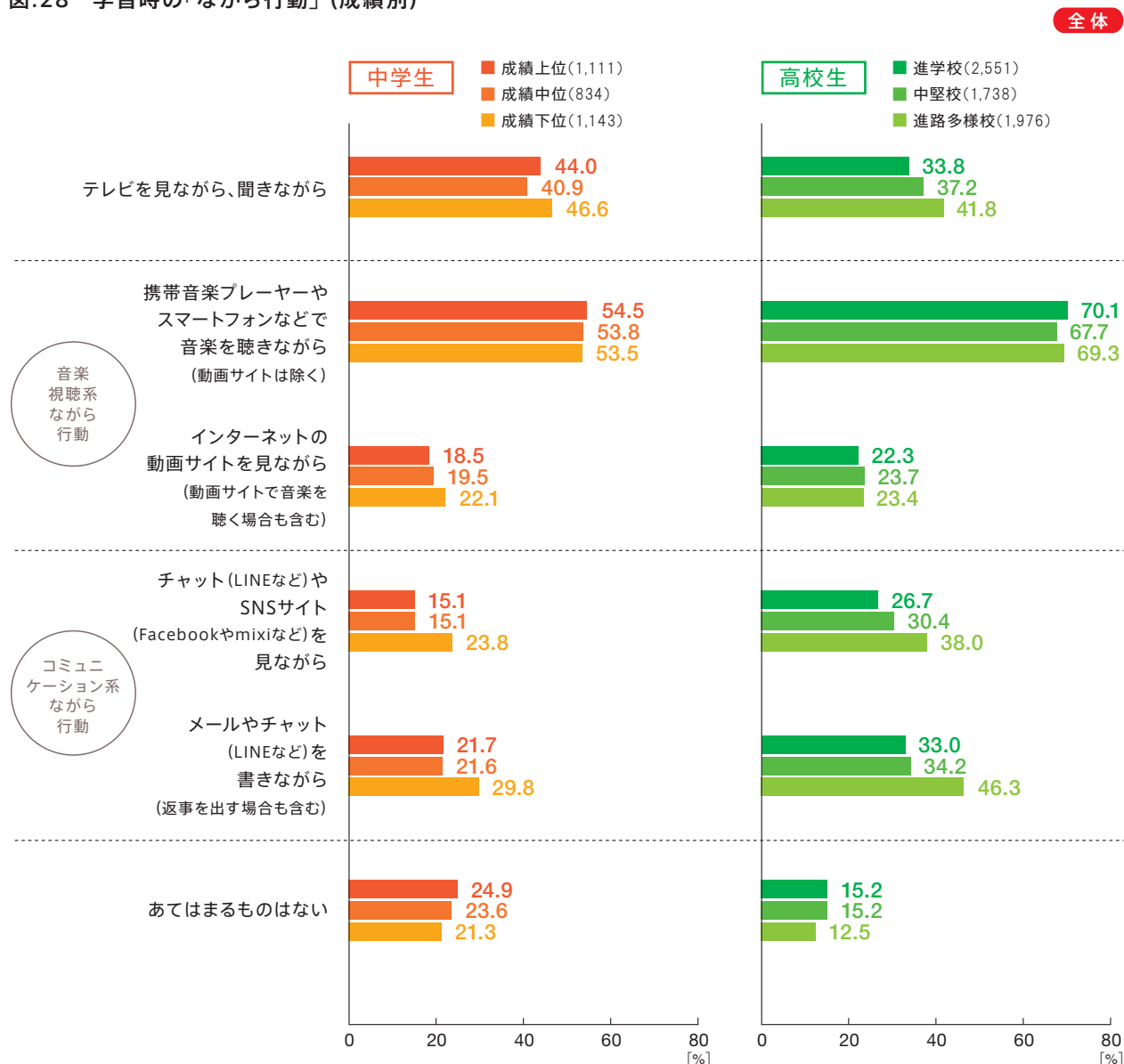
注) 数値は「該当者」の%。

成績下位層で「コミュニケーション系ながら行動」の比率が高い。

中高生の学習時の「ながら行動」は成績とどのような関係にあるのだろうか。図28はその傾向を成績別にみたものである。中高生ともに成績中上位層と比べ、成績下位層で「チャット(LINEなど)やSNSサイト(Facebookやmixiなど)を見ながら」「メールやチャットを書きながら」(コミュニケーション系ながら行動)の比率が高い。一方、「携帯音楽プレーヤーやスマートフォンなどで音楽を聴きながら(動画サイトは除く)」「インターネットの動画サイトを見ながら(動画サイトで音楽を聴く場合も含む)」(音楽視聴系ながら行動)では成績による差がみられない。

Q あなたは、家で、次のようなことをしながら勉強をすることがありますか。

図.28 学習時の「ながら行動」(成績別)



「普段の学習スタイル」が メディア利用に与える影響

ここまで成績による学習時のメディア利用の違いをみてきた。
しかしメディア利用に影響を与える要因はその他にもあるだろう。
ここでは、中高生の「普段の学習スタイル」(学習行動・学習に対する考え方等)によって
メディア利用にどのような違いがあるかをみてみよう。

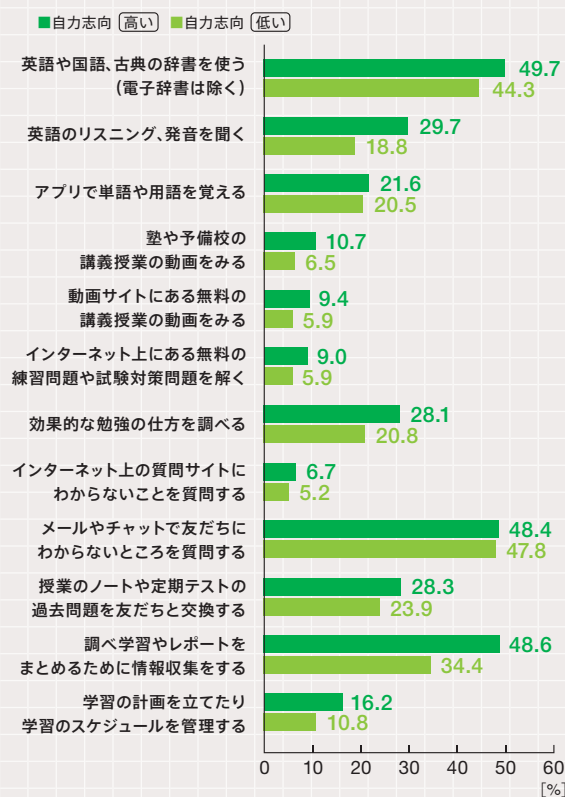
「普段の学習スタイル」によってメディア利用はどれくらい違うのだろうか。普段の学習スタイルを代表する項目として「わからないところはまず自分で考える」(自力志向)、「わからないところはすぐに誰かに教えてもらう」(他力志向)、「テスト前には要点が簡単にまとめられた市販の教材で勉強する」(要領志向)の3項目を使用し、スタイルごとのメディア利用の特徴をみてみよう。なお、分析には、中学生に比べ、よりインターネットやメールの利用率が高い高校生のデータを使用した。

自力志向

**「勉強は自分の力でやる。メディアはあくまで
効果的に利用し、自分の勉強を補完するもの！」**

右のグラフは、自力志向の高低別に、学習時における高校生のメディア利用の違いをみたものである。結果をみると、自力志向の高い学習スタイルの生徒は、自力志向の低い学習スタイルの生徒に比べ、「調べ学習やレポートをまとめるために情報収集をする」「効果的な勉強の仕方を調べる」「英語のリスニング、発音を聞く」で利用率が高くなっている。自力志向の高い学習スタイルの生徒は、どちらかというと自分の学習を効果的に進めるための補完的なツールとしてメディアを利用する傾向がみられる。

■ 自力志向の高低別 学習時のメディア利用



注1) 「普段の学習スタイル」の代表項目の抽出にあたっては、まず探索的因子分析を行い、抽出した3つの因子について、それぞれもっとも因子負荷量の高い項目を選んだ。

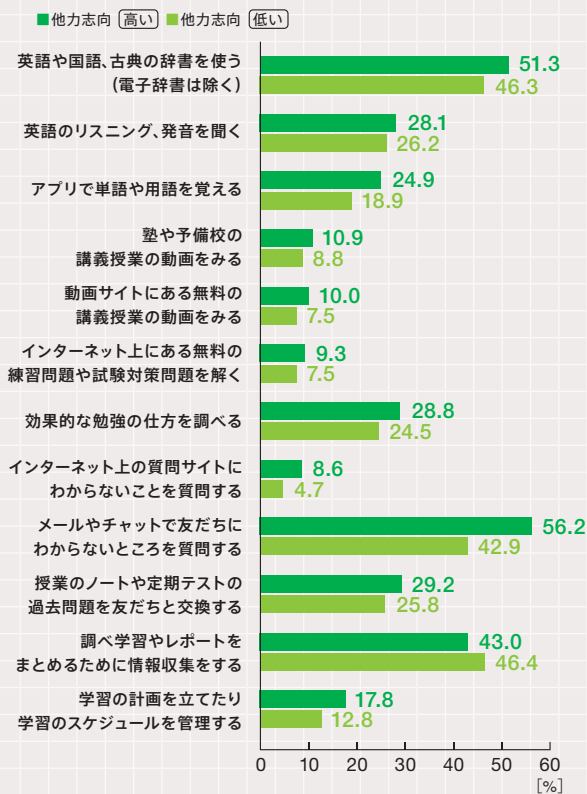
注2) 数値は「よくある」+「ときどきある」の%。

他力志向

「わからないところは、チャットですぐに質問。
勉強はできるかぎり省エネ！」

つづいて、他力志向の高低別に、学習時におけるメディア利用の実態をみてみよう。他力志向の高い学習スタイルの生徒は、他力志向の低い学習スタイルの生徒に比べ「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」の利用率が10ポイント以上高い。また、「アプリで単語や用語を覚える」といった項目でも利用率に差がみられる。他力志向の高い学習スタイルの生徒は、補完的にツールを利用するというよりは、友だちからの情報やアプリに頼った学習をしている可能性がうかがえる。

■ 他力志向の高低別 学習時のメディア利用

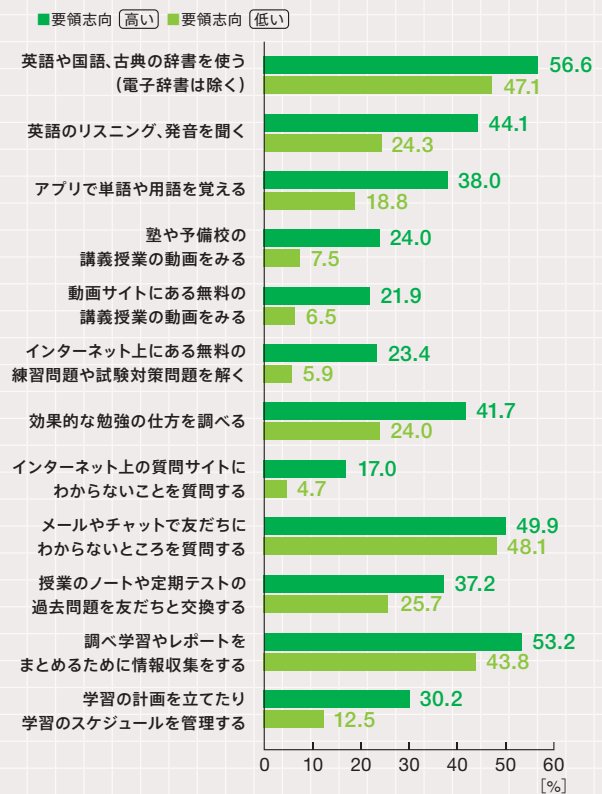


要領志向

「便利なツールや機能はどんどん取り入れて
効率的に勉強！」

最後は要領志向の高低別のメディア利用実態である。「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」の項目を除くすべての項目において、5ポイント以上の利用率の差がみられる。要領志向の高い学習スタイルの生徒は、何か特定のツールや機能を利用するというよりは、できるだけ効率的に勉強したいという意識からか、便利なものは積極的に学習に取り入れ、利用しようとする傾向がみられる。

■ 要領志向の高低別 学習時のメディア利用



以上、高校生の「普段の学習スタイル」と学習時のメディア利用の関連をみてきた。その結果、普段どのような学習に対する意識や行動をとっているかによって、学習の際のメディア利用の内容や利用率に差があることが明らかになった。

この結果は、見方を変えると、高校生の普段の学習スタイルやそれに基づく学習行動が、メディアの利用によって促進、強化されているようにもみえる。大事なのは、メディアの利用の仕方だ。もともと持っている学習スタイルが自律的で、それを強化するメディアの使い方になっていればよいが、普段の学習スタイルが依存的で、「とにかく友だちに質問して教えてもらえばよい」といった思考を深めない使い方や留まっているのだとすれば課題が残る。メディアの利用について「適切な使い方」が叫ばれているが、それは単に大人の「健全」や「有害」の認識に基づいて、どう規制するかを検討するだけでなく、メディアの効果的な使い方や、どのような意識や考え方の下に利用しているかを中高生自身にいかにか考えさせるかといった観点からも、もっと検討がなされるべきではないか。

調査企画・分析メンバー

木村 忠正 （東京大学 教授）

中西 新太郎 （横浜市立大学 名誉教授）

藤川 大祐 （千葉大学 教授）

木村 治生 （ベネッセ教育総合研究所 初等中等教育研究室 室長）

樋口 健 （ベネッセ教育総合研究所 高等教育研究室 室長）

吉本 真代 （ベネッセ教育総合研究所 研究員）

佐藤 昭宏 （ベネッセ教育総合研究所 研究員）

Benesse®

ベネッセ教育総合研究所

〒206-0033 東京都多摩市落合1-34
TEL 042-311-3390

4WW002